

# H27-B-2 0.00~9.70m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
1	-	-	0.00	0.70	試掘でコンクリートが分布することを確認している。コア採取は実施しなかった。	・コンクリートが分布し、コア採取を実施しなかったことを明記した	0.00	0.70	0.00~0.70m: 試掘でコンクリートが分布することを確認している。コア採取は実施しなかった。	-
2	0.00	0.70	0.00	0.70	地質名欄「コンクリート」	・表裏の統一「コア欠如」	0.00	0.70	(地質名欄)コア欠如	-
3	-	-	0.70	12.33	盛土	・人工堆積物の区間を記載した	0.70	12.33	0.70~12.33m: 盛土	-
4	-	-	0.70	1.00	グリ石	・盛土区間の地質を記載した	0.70	1.00	0.70~1.00m: グリ石	-
5	0.70	1.00	0.70	1.00	地質名欄「盛土」 色調欄「2」黒	・表裏の統一「盛土」 ・コアに合わせて色調を追加した	0.70	1.00	(地質名欄)盛土 色調欄「黒」	-
6	1.00	2.00	1.00	2.00	径0.05~2.0mmの中粒砂~極粗粒砂主体の盛土 淘汰は良い	・記載の修正(0.05⇔0.25) ・掃まり具合について記載した	1.00	4.10	1.00~4.10m: 径0.25~2mmの中粒砂~極粗粒砂主体。淘汰は概ね良好である。ルーズで、径10~50mmの花崗岩類、黒色砂岩の角礫を含む。	・盛土区間のうち、同様な地質区間をまとめて書きした
7	2.00	3.40	2.00	3.40	径0.05~2.0mmの中粒砂~極粗粒砂主体の盛土 淘汰は普通 10~50mmの硬を複数含む	・記載の修正(0.05⇔0.25「径」の記載漏れ) 淘汰は普通、ルーズ。 径10~50mmの花崗岩類、黒色砂岩の角礫を多く含む	1.00	4.10	1.00~4.10m: 径0.25~2mmの中粒砂~極粗粒砂主体。淘汰は概ね良好である。ルーズで、径10~50mmの花崗岩類、黒色砂岩の角礫を含む。	・盛土区間のうち、同様な地質区間をまとめて書きした
8	3.40	4.00	3.40	4.10	径0.05~2.0mmの中粒砂~極粗粒砂主体の盛土 淘汰は良い	・スライムの上端深度に合わせて下端深度を変更した ・記載の修正(0.05⇔0.25、単位の記事ミス) ・掃まり具合について記載した	3.40	4.10	3.40~4.10m: 径0.25~2mmの中粒砂~極粗粒砂主体。淘汰は概ね良好である。ルーズ	-
9	-	-	4.10	5.83	スライム	・スライム区間を明記した	4.10	5.83	4.10~5.83m: スライム 微混じりシルト質粗粒砂、灰黄褐色を呈する砂混じり腐植質シルト、砂混じりシルト、黒褐色を呈する腐植質シルトからなる。所々、径7cm以下の花崗岩類、黒色砂岩の角礫を含む。全体にルーズである。	・スライム区間の地質名を列記してまとめて書きした
10	-	-	4.10	4.28	径2~10mmの花崗岩類、石英、長石、黒色砂岩の角礫、植物片を含む。シルト質粗粒砂からなる。 ルーズ	・スライム区間の性状を記載した	4.10	5.83	4.10~5.83m: スライム 微混じりシルト質粗粒砂、灰黄褐色を呈する砂混じり腐植質シルト、砂混じりシルト、黒褐色を呈する腐植質シルトからなる。所々、径7cm以下の花崗岩類、黒色砂岩の角礫を含む。全体にルーズである。	-
11	4.10	5.83	4.10	5.83	地質名欄「盛土」	・スライム区間のため地質名をコア欠如に変更した	4.10	5.83	(地質名欄)コア欠如	-
12	-	-	4.28	4.42	砂混じり腐植質シルトからなる。軟質、灰黄褐色(10YR5/2)を呈する。	・スライム区間の性状を記載した	-	-	-	・上記でスライム区間の記載をまとめて書きしたため記載しない
13	-	-	4.42	5.80	砂混じりシルトからなる。軟質	・スライム区間の性状を記載した	-	-	-	・上記でスライム区間の記載をまとめて書きしたため記載しない
14	-	-	4.84	4.84	径7cmの花崗岩類の角礫あり。	・スライム区間の性状を記載した	-	-	-	・上記でスライム区間の記載をまとめて書きしたため記載しない
15	-	-	4.98	4.98	径5cmの花崗岩類の角礫あり。	・スライム区間の性状を記載した	-	-	-	・上記でスライム区間の記載をまとめて書きしたため記載しない
16	-	-	5.80	5.83	腐植質シルトからなる。黒褐色(5Y3/1)を呈する。軟質。	・スライム区間の性状を記載した	-	-	-	・上記でスライム区間の記載をまとめて書きしたため記載しない
17	-	-	5.83	7.00	砂混じりシルト質粗粒砂主体で、6.80~7.00mは硬質粗粒砂からなる。	・盛土の地質名及び性状を記載した	5.83	7.00	5.83~7.00m: 砂混じりシルト質粗粒砂主体で、6.80~7.00mは硬質粗粒砂からなる。	-
18	5.83	6.25	5.83	6.25	色調欄「10YR6/4」にぶい黄橙	・コアに合わせて色調を変更した	5.83	6.25	色調欄「ぶい黄」	-
19	6.25	6.64	6.25	6.64	色調欄「10YR6/4」にぶい黄橙	・コアに合わせて色調を変更した	6.25	6.64	色調欄「灰」	-
20	-	-	7.00	7.12	合板	・人工堆積物である合板を記載した	7.00	7.12	7.00~7.12m: 合板が分布する。	-
21	7.00	7.41	7.00	7.41	色調欄「7.5YR5/4」にぶい黄橙	・コアに合わせて色調を変更した	7.00	7.41	色調欄「ぶい黄橙」	-
22	-	-	7.12	7.17	径8cmの花崗岩類の角礫	・盛土中に含まれる様について記載した	7.12	7.17	7.12~7.17m: 径8cmの花崗岩類の角礫を含む。	-
23	-	-	7.17	7.41	スライム 砂混じりシルトからなる。軟質。	・スライム区間を明記し、スライムの性状を記載した	7.17	7.41	7.17~7.41m: スライム 砂混じりシルトからなる。軟質。	-
24	7.17	12.33	7.17	12.33	地質名欄「コア欠如」	・スライム区間のため地質名をコア欠如に変更した	7.17	12.33	(地質名欄)コア欠如	-
25	-	-	7.41	8.53	スライム 径10cm以下の花崗岩類の歪角~角礫からなる。コアの形状をなしていない。基質部は流出している。	・スライム区間の性状を記載した	7.41	8.53	7.41~8.53m: スライム 径10cm以下の花崗岩類の歪角~角礫からなる。コアの形状をなしていない。基質部は流出している。	-
26	-	-	8.11	8.20	スライム シルト質硬からなる。ルーズ	・スライム区間の性状を記載した	8.11	8.20	8.11~8.20m: スライム ルーズなシルト質硬からなる。	-
27	8.50	8.53	8.50	8.53	色調欄「7.5YR5/4」にぶい黄	・コアに合わせて色調を変更した	8.50	8.53	色調欄「ぶい黄」	-
28	-	-	8.53	9.22	スライム 砂・微混じりシルトからなる。軟質	・スライム区間の性状を記載した	8.53	9.70	8.53~9.70m: スライム 砂・微混じりシルトからなる。軟質。下部は植物片が混じる。	・スライム区間のうち、同様な地質区間をまとめて書きした

# H27-B-2 9.00~13.53m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
29	9.00	9.22	色調欄)5YR4/1褐灰	9.00	9.22	色調欄)5YR6/1灰緑	9.00	9.22	(色調欄)灰褐	-
30	-	-	-	9.22	9.70	スライム 砂・塊凝りシルトからなる。軟質。植物片混じる。	-	-	-	・上記でスライム区間の記載をまとめて書きためたため記載しない
31	-	-	-	9.70	9.80	スライム 径8cmの花崗斑岩の礫。	9.70	9.80	9.70~9.80m:スライム 径8cmの花崗斑岩の礫からなる。	-
32	9.70	10.26	色調欄)5YR4/1褐灰	9.70	10.26	色調欄)5YR5/1褐灰	9.70	10.26	(色調欄)褐灰	-
33	-	-	-	9.80	10.26	スライム 砂・塊凝りシルトからなる。軟質。植物片混じる。 礫は径3cm以下の花崗斑岩の角礫からなる。	9.80	10.42	9.80~10.42m:スライム 砂・塊凝りシルト~塊凝り砂からなる。軟質。植物片混じる。 礫は径3cm以下の花崗斑岩の角礫からなる。	・スライム区間のうち、同様な地質の区間をまとめて書きためた
34	-	-	-	10.26	10.42	スライム 塊凝りシルトからなる。	-	-	-	・上記でスライム区間の記載をまとめて書きためたため記載しない
35	10.26	10.42	色調欄)5YR4/1褐灰	10.26	10.42	色調欄)10YR7/1灰白	10.26	10.42	(色調欄)灰白	-
36	-	-	-	10.42	10.70	スライム 砂・塊凝りシルト~粘土からなる。軟質。泥剤がコア表面に付着している。	10.42	10.70	10.42~10.70m:スライム 砂・塊凝りシルト~粘土からなる。軟質。泥剤がコア表面に付着している。	-
37	10.42	10.50	色調欄)5YR4/1褐灰	10.42	10.50	色調欄)10YR7/6明黄褐	10.42	10.50	(色調欄)明黄褐	-
38	-	-	-	10.70	11.00	スライム 砂・塊凝りシルトからなる。軟質	10.70	11.00	10.70~11.00m:スライム 砂・塊凝りシルトからなる。軟質。	-
39	10.70	11.00	色調欄)10YR7/6明黄褐	10.70	11.00	色調欄)10YR8/1 褐灰	10.70	11.00	(色調欄)褐灰	-
40	-	-	-	11.00	11.30	スライム 径8cm以下の花崗斑岩の礫。基質部は流出している。	11.00	11.30	11.00~11.30m:スライム 径8cm以下の花崗斑岩の礫。基質部は流出している。	-
41	11.00	11.30	色調欄)10YR6/6明黄褐	11.00	11.30	色調欄)5YR7/3 に近い橙	11.00	11.30	(色調欄)にぶい橙	-
42	-	-	-	11.30	11.58	スライム 塊凝りシルト質砂からなる。ルーズ	11.30	11.58	11.30~11.58m:スライム 塊凝りシルト質砂からなる。ルーズである。	-
43	11.30	11.50	色調欄)10YR6/6明黄褐	11.30	11.50	色調欄)5YR5/1 褐灰	11.30	11.50	(色調欄)褐灰	-
44	11.50	11.58	色調欄)10YR6/8明黄褐	11.50	11.58	色調欄)7.5YR5/1 褐灰	11.50	11.58	(色調欄)褐灰	-
45	-	-	-	11.58	12.00	スライム 塊凝り粗粒砂からなる。ルーズで、径2cm以下の 花崗斑岩の角礫を含む。	11.58	12.00	11.58~12.00m:スライム 塊凝り粗粒砂からなる。ルーズで、径2cm以下の 花崗斑岩の角礫を含む。	-
46	11.58	12.00	色調欄)10YR6/8明黄褐	11.58	12.00	色調欄)7.5YR5/4にぶい褐	11.58	12.00	(色調欄)にぶい褐	-
47	-	-	-	12.00	12.33	スライム 径8cm以下の花崗斑岩の礫からなる。基質部は流出している。	12.00	12.33	12.00~12.33m:スライム 径8cm以下の花崗斑岩の礫からなる。基質部は流出している。	-
48	12.33	12.75	礫率70~80%でクサリ礫を多く含む 礫種はGPと一部APで、礫径は2~100mmで、一部最大径200mmの礫が認められる。 垂角礫が主体 12.68~12.80m付近にマンガン濃集部が認められる	12.33	12.79	礫率70~80%でクサリ礫を多く含む。やや硬質。 礫種はGPと一部APで、礫径は2~100mmで、一部最大径200mmの礫が認められる。 垂角礫が主体 12.68~12.79m付近にマンガン濃集部が認められる	12.33	12.79	12.33~12.79m:砂礫 礫率70~80%でクサリ礫を多く含む。やや硬質。礫種は花崗斑岩と一部AP ライトで、礫径は2~100mm、最大径200mmの礫が認められる。垂角礫が 主体。 12.68~12.79m付近にマンガン濃集部が認められる。	-
49	12.75	12.79	(地質名欄)塊凝りシルト	12.75	12.79	(地質名欄)砂礫	12.75	12.79	(地質名欄)砂礫	-
50	12.75	13.00	礫率5~10%でクサリ礫を含む 礫種はGPで礫径は2~10mm 垂角礫が主体	12.79	13.00	スライム 塊凝り粗粒砂からなり、礫率5~10%でクサリ礫を 含む。 礫種はGPで礫径は2~10mm 垂角礫が主体。ルーズ	12.79	13.00	12.79~13.00m:スライム 塊凝り粗粒砂からなり、礫率5~10%でクサリ礫を含む。礫種は花崗斑岩 で礫径は2~10mm、垂角礫が主体。ルーズである。	-
51	-	-	-	13.00	13.18	スライム 径4cm以下の花崗斑岩の角礫からなる。	13.00	13.18	13.00~13.18m:スライム 径4cm以下の花崗斑岩の角礫からなる。	-
52	12.79	13.53	地質名欄)塊凝りシルト	12.79	13.53	(地質名欄)コア欠如	12.79	13.53	(地質名欄)コア欠如	-

# H27-B-2 13.00~20.90m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを通正している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			通知変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
53	13.00	13.18	(色調種)25YR6/4にふい煙	13.00	13.18	(色調種)10YR5/6黄褐	13.00	13.18	(色調種)黄褐	-
54	-	-	-	13.18	13.53	スライム 砂・礫混じりシルト、軟質 13.32~13.45m間にはふい煙色の径2cm以下の角礫を20%程度含む灰黄褐色シルトからなる。	13.18	13.53	13.18~13.53m:スライム 砂・礫混じりシルトからなる。軟質である。 13.32~13.45m間にはふい煙色の径2cm以下の角礫を20%程度含む灰黄褐色シルトからなる。	-
55	13.53	13.53	着岩	-	-	-	-	-	-	下記に花崗斑岩の区間を示しているため着岩の記載はしない
56	-	-	-	13.53	160.00	花崗斑岩	13.53	160.00	13.53~160.00m:花崗斑岩	-
57	13.53	29.88	CL 硬さ「D」主体で、0~30° 割れ目が多い。全体に風化し、一部の割れ目自身には砂状化が進む。	13.53	30.10	CL 硬さ「D」主体で、0~30° 割れ目が多い。全体に風化し、一部の割れ目自身には砂状化が進む。	13.53	30.10	13.53~20.10m:CL 硬さ「D」主体で、0~30° の割れ目が多い。全体に風化し、一部の割れ目自身には砂状化が進む。	-
58	13.53	14.89	(変質種)3ランク	13.53	14.89	(変質種)2ランク	13.53	14.89	(変質種)2ランク	-
59	14.91	14.91	幅4mmで傾斜15° の石英脈が認められる。	13.91	13.91	幅4mmで傾斜15° の石英脈が認められる。	13.91	13.91	13.91m:幅4mmで傾斜15° の石英脈が認められる。	-
60	14.55	14.68	割れ目沿いにマンガン濃集部が認められる。一部(14.55m~14.63m)で土砂化が生じている。	-	-	-	14.55	14.68	14.55~14.68m:割れ目沿いにマンガン濃集部が認められる。一部(14.55~14.63m)で土砂化が生じている。	-
61	14.89	15.00	スライムのため判別不可	14.89	15.09	スライム 14.89~15.00m 砂混じりシルトからなる 15.00~15.09m 砂混じり礫からなる	14.89	15.09	14.89~15.09m:スライム 14.89~15.00m間は砂混じりシルトからなる。15.00~15.09m間は砂混じり礫からなる。	-
62	15.09	15.09	スライムのため判別不可	-	-	-	-	-	-	-
63	14.89	15.09	(地質名種)スライム	14.89	15.09	(地質名種)コア欠如	14.89	15.09	(地質名種)コア欠如	-
64	15.09	28.02	(変質種)3ランク	15.09	28.02	(変質種)2ランク	15.09	28.02	(変質種)2ランク	-
65	15.62	15.66	割れ目に沿ったマンガン濃集部あり	-	-	-	15.62	19.80	15.62~19.80m:所々、割れ目に沿ったマンガン濃集部が見られる。	マンガン濃集部が見られる区間をまとめて書きした
66	15.80	16.00	割れ目に沿ったマンガン濃集部あり	-	-	-	-	-	-	上記でマンガン濃集部の記載をまとめて書きしたため記載しない
67	16.50	16.51	割れ目に沿って緑泥石が発達	16.50	16.51	25° の割れ目に沿って緑泥石が分布する。	16.50	16.51	16.50~16.51m:25° の割れ目に沿って緑泥石が分布する。	-
68	16.78	16.86	マンガン濃集部が密集している	-	-	-	-	-	-	上記でマンガン濃集部の記載をまとめて書きしたため記載しない
69	16.92	16.93	割れ目に沿ったマンガン濃集部あり	16.92	16.93	25° の割れ目に沿ったマンガン濃集部あり	-	-	-	上記でマンガン濃集部の記載をまとめて書きしたため記載しない
70	17.10	17.10	割れ目に沿ったマンガン濃集部あり	-	-	-	-	-	-	上記でマンガン濃集部の記載をまとめて書きしたため記載しない
71	17.16	-	17.16m以深は上位に比べ割れ目やや少なくなる	17.16	-	17.16m以深は上位に比べ割れ目やや少なくなる	17.16	-	17.16m以深は上位に比べ割れ目がやや少なくなる。	-
72	17.57	17.64	割れ目に沿って緑泥石が発達	17.57	17.64	35~40° の割れ目に沿って緑泥石が分布する。	17.57	17.64	17.57~17.64m:35~40° の割れ目に沿って緑泥石が分布する。	-
73	17.70	17.80	割れ目に沿ったマンガン濃集部あり	-	-	-	-	-	-	上記でマンガン濃集部の記載をまとめて書きしたため記載しない
74	17.90	17.94	割れ目に沿ったマンガン濃集部あり	-	-	-	-	-	-	上記でマンガン濃集部の記載をまとめて書きしたため記載しない
75	-	-	-	18.20	18.35	20° の割れ目に沿って黄褐色酸化が見られる	18.20	18.35	18.20~18.35m:20° の割れ目に沿って黄褐色酸化が見られる。	-
76	-	-	-	18.68	18.74	60° の割れ目2条分布し、面にマンガン濃集部が見られる	-	-	-	上記でマンガン濃集部の記載をまとめて書きしたため記載しない
77	-	-	-	18.59	18.59	10° の割れ目に幅1cm程度の褐色の砂状部を挟む	18.59	18.59	18.59m:10° の割れ目に幅1cm程度の褐色の砂状部を挟む。	-
78	19.59	19.80	10m/m程度間隔で割れ目あり。マンガンと石英を伴う。	19.59	19.80	10mm程度間隔で割れ目あり。マンガンと石英を伴う。	19.59	19.80	19.59~19.80m:10mm程度の間隔で割れ目が分布し、マンガンと石英を伴う。	-
79	-	19.70	19.70m以深は風化が進み軟質化する	-	-	-	-	19.70	19.70m以深は風化が進み軟質化する。	-
80	-	-	-	20.25	20.25	30° の割れ目に幅1~5mmの黄灰色砂状部を挟む	20.25	20.25	20.25m:30° の割れ目に幅1~5mmの黄灰色砂状部を挟む。	-
81	20.90	20.90	0° 割れ目約10m/m砂状化	20.90	20.90	5° の割れ目沿いに幅約10mm砂状化	20.90	20.90	20.90m:5° の割れ目沿いに幅約10mm砂状化を呈する。	-

# H27-B-2 21.60~28.02m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それと変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「J」で表示)		上端深度	下端深度	追記した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
82	21.60	21.79	コアの形状欄IVランク	21.60	21.79	コアの形状欄Vランク	21.60	21.79	コアの形状欄Vランク	
83	-	-	-	21.67	21.67	0°の割れ目に幅1mmの暗灰色粘土を挟む。 上端側の幅10mmは淡黄褐色を呈する。	21.67	21.67	21.67m:0°の割れ目に幅1mmの暗灰色粘土を挟む。上端側の幅10mmは淡黄褐色を呈する。	
84	21.90	21.90	φ10m/m石英が80°割れ目(s)で切られる(右ズレ10m/m)。	21.90	21.90	φ10mm石英が80°割れ目で横断される。80°割れ目(s)ではなく、分岐しており、分岐したそれぞれの割れ目は不連続である。(s)で切られる石英はφ10mm。高角度割れ目には細粒部が認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。系統的な割れ目も存在しない。	21.90	21.90	21.90m:径10mmの石英斑晶が80°の割れ目で横断される。80°の割れ目は1条ではなく、分岐しており、分岐したそれぞれの割れ目は不連続である。高角度割れ目には細粒部が認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。系統的な割れ目も存在しない。	
85	21.79	26.82	硬さ「C」が主体であるが、硬さ「D」も富み両者が交互に出現する。 割れ目ぞいに風化で砂状化する部分が多い。	21.79	26.82	硬さ「C」が主体であるが、硬さ「D」も富み両者が交互に出現する。 割れ目ぞいに風化で砂状化する部分が多い。	21.79	26.82	21.79~26.82m:硬さ「C」が主体であるが、硬さ「D」も富み両者が交互に出現する。割れ目ぞいに風化で砂状化する部分が多い。	
86	21.79	23.41	(風化欄)Aランク	21.79	23.41	(風化欄)Bランク	21.79	23.41	(風化欄)Bランク	
87	22.10	22.50	コアの硬さ欄Cランク	22.10	22.50	コアの硬さ欄Bランク	22.10	22.50	コアの硬さ欄Bランク	
88	22.18	22.49	硬さ「B」で硬質	22.10	22.50	硬さ「B」で硬質	22.10	22.50	22.10~22.50m:硬さ「B」で硬質。	
89	22.15	22.50	コアの形状欄IVランク	22.15	22.50	コアの形状欄Bランク	22.15	22.50	コアの形状欄Bランク	
90	22.50	23.00	コアの形状欄IVランク	22.50	23.00	コアの形状欄Vランク	22.50	23.00	コアの形状欄Vランク	
91	22.62	23.41	コアの硬さ欄Cランク	22.62	23.41	コアの硬さ欄Bランク	22.62	23.41	コアの硬さ欄Bランク	
92	-	-	-	23.22	23.22	10°の割れ目に幅5mmで黄灰色のやや硬質な砂を挟む。	23.22	23.22	23.22m:10°の割れ目に幅5mmで黄灰色のやや硬質な砂を挟む。	
93	23.52	23.82	23.52m・30°と23.82m・20°の各割れ目に厚さ1m/m半円結状の灰褐色粘土層はさむ	23.52	23.82	23.52m・30°と23.82m・20°の各割れ目に幅1mmのやや硬質な灰褐色粘土層はさむ	23.52	23.82	23.52m・30°と23.82m・20°の各割れ目に幅1mmのやや硬質な灰褐色粘土層を挟む。	
94	-	-	-	23.89	23.89	25°の割れ目に幅5mmの黒灰色シルト質砂を挟む。	23.89	23.89	23.89m:25°の割れ目に幅5mmの黒灰色シルト質砂を挟む。	
95	25.31	25.31	20°割れ目ぞいにφ0.5m/m~1m/mと微細な雲母(セリサイト?)が晶出している。	25.41	25.41	20°割れ目ぞいにφ0.5~1mmと微細な雲母(セリサイト?)が晶出している。	25.41	25.41	25.41m:20°割れ目ぞいにφ0.5~1mmと微細な雲母(セリサイト?)が晶出している。	
96	25.72	25.98	コアの形状欄IVランク	25.72	25.98	コアの形状欄Vランク	25.72	25.98	コアの形状欄Vランク	
97	25.84	25.84	74°の割れ目(s)は交差する5~10°割れ目を切っている(右ズレ、変位量1~3mm/m)。	25.84	25.84	74°の割れ目(s)は交差する5~10°割れ目を止めている場合と横断する場合がある。切っている(右ズレ、変位量1~3mm/m)割れ目には細粒部が認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。高角度割れ目と系統的な割れ目も存在しない。25.80mの高角度割れ目と交差する低角度割れ目には、ずれは認められない。	25.84	25.84	25.84m:74°の割れ目は交差する5~10°の割れ目を止めている場合と横断する場合がある。割れ目には細粒部が認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。高角度割れ目と系統的な割れ目も存在しない。25.80mの高角度割れ目と交差する低角度割れ目には、ずれは認められない。	
98	26.82	-	26.82m以降は硬さ「D」が主体となる。	26.82	-	26.82m以降は硬さ「D」が主体となる。	26.82	-	26.82m以降は硬さ「D」が主体となる。	
99	-	-	-	27.04	27.90	割れ目面にマンガンが付着する。	27.04	27.90	27.04~27.90m:割れ目面にマンガンが付着する。	
100	27.15	27.15	85°割れ目に幅2~3m/m軟黄淡黄~灰白色粘土層はさむ。	27.15	27.15	85°割れ目に幅2~3mmの軟黄淡黄~灰白色粘土を挟む。	-	-	-	
101	27.91	27.91	20°幅1m/m石英脈が交差する85°せん断割れ目(s)で右ズレ1m/mで引きつられるように変形している(切られてはいない)。	27.91	27.91	20°幅1mm石英脈が交差する85°せん断割れ目(s)で右ズレ1m/mで引きつられるように変形している(切られてはいない)割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	27.91	27.91	27.91m:20°で幅1mmの石英脈が交差する85°の割れ目を横断する。また、27.88mの低角度の潜在割れ目も85°の割れ目を横断する。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	
102	28.02	-	28.02m以降、10mm間隔の風化割れ目が発達し、片状~塊状化している。 割れ目ぞいに風化砂状化することが多い。	28.02	-	28.02m以降、10mm間隔の風化割れ目が発達し、片状~塊状化している。 割れ目ぞいに風化砂状化することが多い。	28.02	-	28.02m以降、10mm間隔の風化した割れ目が発達し、片状~塊状化している。割れ目ぞいに風化して砂状化することが多い。	

# H27-B-2 28.24~34.37m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			通知変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
103	-	-	28.24	28.94	割れ目に沿った風化・変質が見られる	-	28.24	28.94	28.24~28.94m: 割れ目に沿った風化・変質が見られる。	
104	-	-	28.55	28.55	25°の割れ目に幅10mmの硬質な黄灰色シルト質砂を挟在する。	-	28.55	28.55	28.55m: 25°の割れ目に幅10mmの硬質な黄灰色シルト質砂を挟在する。	
105	-	-	29.19	29.19	50°の割れ目に幅3mmの灰白色粘土を挟在する。	-	29.19	29.19	29.19m: 50°の割れ目に幅3mmの灰白色粘土を挟在する。	
106	29.88	30.82	30.10	30.82	D 概ねφ10mm以下に砕けている風化で割れ目沿いに砂状化が拡大している。φ5~30mmの硬さ[D]「C」岩片が多く残留し、棒状砂礫状を呈する。基質は砂状部が主体であるが、灰白色粘土化部も散在している。岩組織や上部の割れ目は残留している。	-	30.10	30.82	D 概ねφ10mm以下に砕けている風化で割れ目沿いに砂状化が拡大している。φ5~30mmの硬さ[D]「C」岩片が多く残留し、棒状砂礫状を呈する。基質は砂状部が主体であるが、灰白色粘土化部も散在している。原岩組織や上部の割れ目は残留している。	
107	29.88	30.10	29.88	30.10	(コアの硬さ欄)Dランク (岩級区分欄)D	-	29.88	30.10	(コアの硬さ欄)Dランク (岩級区分欄)DL	
108	29.88	30.82	29.88	30.82	(風化欄)Eランク	-	29.88	30.82	(風化)Eランク	
109	30.82	31.15	30.82	31.15	CL 割れ目沿いに砂状化することが多い。	-	30.82	31.15	CL 割れ目沿いに砂状化することが多い。	
110	30.82	31.15	30.82	31.15	(岩級区分欄)CL	-	30.82	31.15	(岩級区分欄)DIに含める	
111	31.15	31.66	31.15	31.66	破砕帯(主せん断面31.29m)	-	31.15	31.66	●31.15~31.66m: 破砕帯 31.15~31.24m: 粘土混じり岩片状部(Hj) 上端20°で直線的、下端15~28°で湾曲して連続。一部粘土化したφ5~10mmの粘土~幅1~2mm粘土細脈からなり「粘土混じり岩片状」を呈する。色調はぶい黄褐色(10YR 7/2)。厚さ80~90mm/m	-
112	31.15	31.24	31.15	31.24	Hj 上端20°で直線的、下端15~28°で湾曲して連続。一部粘土化したφ5~10mmの粘土~幅1~2mm粘土細脈からなり「粘土混じり岩片状」を呈する。色調はぶい黄褐色(10YR 7/2)。厚さ80~90mm/m	-	31.15	31.24	Hj 上端20°で直線的、下端15~28°で湾曲して連続。一部粘土化したφ5~10mmの粘土~幅1~2mm粘土細脈からなり「粘土混じり岩片状」を呈する。色調はぶい黄褐色(10YR 7/2)。厚さ80~90mm/m	
113	31.24	31.28	31.24	31.28	Hb 上端15~28°で湾曲して、下端38°で波打って連続。φ2~3mm石英粒、φ5~10mmの大半が粘土化した岩片計20~30%を含む間結状の「硬質粘土」を呈する。色調は明赤灰(2.54R 7/2)。厚さ20~30mm	-	31.24	31.28	Hb 上端15~28°で湾曲して、下端38°で波打って連続。φ2~3mm石英粒、φ5~10mmの大半が粘土化した岩片計20~30%を含むやや軟質な間結状の「粘土質塊」を呈する。色調は明赤灰(2.54R 7/2)。厚さ20~30mm	
114	31.28	31.29	31.28	31.29	Hc-2 上端波打って、下端は直線的に連続。φ2~3mm石英粒を10~20%含むやや軟質な塊状粘土。色調は灰黄緑(10YR 4/2)。厚さ5~10mm	-	31.28	31.29	Hc-2 上端波打って、下端は直線的に連続。φ2~3mm石英粒を10~20%含むやや軟質な塊状粘土。色調は灰黄緑(10YR 4/2)。厚さ5~10mm	
115	31.29	31.66	31.29	31.66	Hj 上端38°で直線的に、下端43°で波打って連続。φ5~20mm硬さ「C」主体に粘土化。硬さ[D]「E」を含む岩片と岩片間の粘土からなり「粘土混じり岩片状」を呈する。色調はぶい黄褐色(7.5YR 7/3)。厚さ350m/m(コア長)	-	31.29	31.66	Hj 上端38°で直線的に、下端43°で波打って連続。φ5~20mm硬さ「C」主体に粘土化。硬さ[D]「E」を含む岩片と岩片間の粘土からなり「粘土混じり岩片状」を呈する。色調はぶい黄褐色(7.5YR 7/3)。厚さ350m/m(コア長)	
116	31.15	31.66	31.15	31.66	(変質欄)3ランク (岩級区分欄)CL	-	31.15	31.66	(変質欄)3ランク (岩級区分欄)DIに含める	
117	31.66	31.78	31.66	31.78		-	31.66	31.78		
118	31.78	34.37	31.78	34.37	D 風化で割れ目沿いに砂状化が拡大する。岩組織は残留するが、割れ目は消滅するか、しかかっているものが多い。殆どに厚1~3mm白色軟質粘土層をはさむ。	-	31.78	34.37	D 風化で割れ目沿いに砂状化が拡大する。原岩組織は残留するが、割れ目は消滅するか、しかかっているものが多い。所々に幅1~3mmの白色軟質粘土層を挟む。	

# H27-B-2 33.00~35.13m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			通知変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
119	33.00	33.25	粘土化進み、層相不明瞭となる。	-	-	-	33.00	33.25	33.00~33.25m: 粘土化が進み、原岩組織は不明瞭となる。	-
120	-	-	-	31.91	31.91	27° の割れ目に軟質な幅3mmの褐色粘土を挟む。	31.91	31.96	31.91~31.96m: 25~30° の割れ目に軟質な幅1~3mmの褐色粘土を挟む。	褐色粘土を挟む割れ目についてまとめ書きした
121	-	-	-	31.92	31.92	25° の割れ目に軟質な幅2mmの褐色粘土を挟む。	-	-	-	上記で褐色粘土を挟む割れ目の記載をまとめ書きしたため記載しない
122	-	-	-	31.96	31.96	30° の割れ目に軟質な幅1mmの褐色粘土を挟む。	-	-	-	上記で褐色粘土を挟む割れ目の記載をまとめ書きしたため記載しない
123	33.35	33.40	様ざ「D」の岩片主体。	-	-	-	33.35	33.40	33.35~33.40m: 様ざ「D」の岩片主体。	-
124	-	-	-	32.45	32.59	8~48° の割れ目沿いに灰白色粘土を挟む。粘土は一部網目状に分布する。	32.45	32.59	32.45~32.59m: 8~48° の割れ目沿いに灰白色粘土を挟む。粘土は一部網目状に分布する。	-
125	33.60	33.60	5° 幅1mmの軟質赤灰色粘土層	33.60	33.60	5° 幅1mmの軟質赤灰色粘土層を挟む。	33.60	33.60	33.60m: 5° で幅1mmの軟質赤灰色粘土層を挟む。	-
126	33.77	33.77	7° 幅5~8mmのマンガン鉱染部が脈状に分布	33.77	33.77	7° 幅5~8mmのマンガン鉱染部が脈状に分布	33.77	33.77	33.77m: 7° で幅5~8mmのマンガン鉱染部が脈状に分布する。	-
127	33.79	33.87	様ざ「D」の岩片主体	-	-	-	33.79	33.87	33.79~33.87m: 様ざ「D」の岩片主体。	-
128	33.96	-	以深は層相不明瞭な砕けた砂状部主体 割れ目の一部は残留するが、消滅しているものが多い。	33.96	-	以深は原岩組織不明瞭な硬質な砂状部主体 割れ目の一部は残留するが、消滅しているものが多い。	33.96	-	33.96m: 以深は原岩組織が不明瞭な硬質な砂状部主体。割れ目の一部は残留するが、消滅しているものが多い。	-
129	-	-	-	33.97	33.97	25° の割れ目に幅2~4mmの褐色粘土を挟む。	33.97	33.97	33.97m: 25° の割れ目に幅2~4mmの褐色粘土を挟む。	-
130	34.37	34.48	破砕帯(主せん断面34.37m)	34.37	34.48	破砕帯(最新活動面34.37m)	34.37	34.48	●34.37~34.48m: 破砕帯 34.37m: 粘土状部(Hc-1) 傾斜13° で上端は直線的、下端は波打って連続。径2mmの石英粒をわずかに(5%以下)含む軟質な粘土(ガウジ)。ガウジは75° のs)と交差し、2m/m右ズレ位置で切られている。マンガン鉱染伴う。黒褐色を呈する。幅2~6mm。 34.37~34.48m: 粘土質硬状部(Hb) 上端13° で波打って、下端20° で直線的に連続。径2~3mmの石英粒、径5~10mmの粘土化~硬ざ「D」岩片を計30%程度含む粗粒状の「硬ざ粘土」を呈する。色調は浅黄(5Y 7/3)~明赤灰色(2.5YR 7/1)。厚さ90mm。	●破砕帯。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や粗粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
131	34.37	34.37	Hc-1 13° で上端直線的、下端波打って連続。径2mm/石英粒をわずかに(5%以下)含む軟質な粘土(ガウジ)。ガウジは75° のs)と交差し、2m/m右ズレ位置で切られている。マンガン鉱染伴う。色調は黒褐色(10YR 3/2)、厚さ2~6mm。	34.37	34.37	Hc-1 13° で上端直線的、下端波打って連続。径2mm/石英粒をわずかに(5%以下)含む軟質な粘土(ガウジ)。ガウジは75° のせん断面と交差し、2m/mかけ右ズレ位置で切られている。マンガン鉱染伴う。色調は黒褐色(10YR 3/2)、厚さ2~6mm。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	34.37	34.48	●34.37~34.48m: 破砕帯 34.37m: 粘土状部(Hc-1) 傾斜13° で上端は直線的、下端は波打って連続。径2mmの石英粒をわずかに(5%以下)含む、軟質、軟質な粘土は75° のせん断面と交差し、2m/mかけ右ズレに位置して切られている。マンガン鉱染を伴う。黒褐色を呈する。幅2~6mm。 34.37~34.48m: 粘土質硬状部(Hb) 上端13° で波打って、下端20° で直線的に連続。径2~3mmの石英粒、径5~10mmの粘土化~硬ざ「D」岩片を計30%程度含む。浅黄~明赤灰色を呈する。幅90mm。	-
132	34.37	34.48	Hb 上端13° で波打って、下端20° で直線的に連続。径2~3mmの石英粒、径5~10mmの粘土化~硬ざ「D」岩片を計30%程度含む粗粒状の「硬ざ粘土」を呈する。色調は浅黄(5Y 7/3)~明赤灰色(2.5YR 7/1)。厚さ90mm。	34.37	34.48	Hb 上端13° で波打って、下端20° で直線的に連続。径2~3mmの石英粒、径5~10mmの粘土化~硬ざ「D」岩片を計30%程度含む粗粒状の「硬ざ粘土」を呈する。色調は浅黄(5Y 7/3)~明赤灰色(2.5YR 7/1)。厚さ90mm。 やや軟質。含まれる粗粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	34.37	34.48	●34.37~34.48m: 破砕帯 34.37m: 粘土状部(Hc-1) 傾斜13° で上端は直線的、下端は波打って連続。径2mmの石英粒をわずかに(5%以下)含む、軟質、軟質な粘土は75° のせん断面と交差し、2m/mかけ右ズレに位置して切られている。マンガン鉱染を伴う。黒褐色を呈する。幅2~6mm。 34.37~34.48m: 粘土質硬状部(Hb) 上端13° で波打って、下端20° で直線的に連続。径2~3mmの石英粒、径5~10mmの粘土化~硬ざ「D」岩片を計30%程度含む。浅黄~明赤灰色を呈する。幅90mm。	-
133	34.80	35.00	(コアの硬さ欄)Cランク	34.80	35.00	(コアの硬さ欄)Cランク	34.80	35.00	(コアの硬さ欄)Cランク	-
134	34.48	35.13	CL 34.59m・29° と34.67m・50° は68° 幅1mmの石英脈を切るせん断割れ目(sj)	34.48	35.13	CL 34.59m・29° と34.67m・50° の割れ目は68° 幅1mmの石英脈、一部石英脈を止めている。切るせん断割れ目(sj)は割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められる。	34.48	35.13	34.48~35.13m: CL 34.59m・29° と34.67m・50° の割れ目は68° で幅1mmのマンガン脈、一部石英脈を止めている。割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められる。	-

# H27-B-2 35.36~35.92m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事					
上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事を削除・変更・追記した理由	上端深度	下端深度	追記した記事内容	コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>						
135	35.36	35.46	破砕帯(主せん断面35.40m)	35.36	35.46	破砕部(最新活動面 35.40m)	・用語の統一(破砕帯→破砕部) ・最新活動面という用語に統一			●35.36~35.46m:破砕部 35.36~35.39m:粘土混じり岩片状~粘土質岩片状(H) 上端やや不明瞭で、下端47"で1箇所小さく湾曲するが、これ以外は直線的に連続。径2~5mm石英粒、径3~5mm粘土化岩片からなるが、岩片の粘土化進むため構造は不詳。「粘土混じり岩片状」~「粘土質岩片状」を呈する。色調は灰黄色(2.5Y 7/2)、厚さ25mm。	・後軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
136	35.36	35.39	H 上端やや不明瞭で47"で波打って、下端47"で1箇所小さく湾曲するが、これ以外は直線的に連続。径2~5mm石英粒、径3~5mm粘土化岩片からなるが、岩片の粘土化進むため構造は不詳。「粘土混じり岩片状」~「粘土質岩片状」を呈する。色調は灰黄色(2.5Y 7/2)、厚さ25mm。	35.36	35.39	H 上端やや不明瞭で47"で波打って、下端47"で1箇所小さく湾曲するが、これ以外は直線的に連続。径2~5mm石英粒、径3~5mm粘土化岩片からなるが、岩片の粘土化進むため構造は不詳。「粘土混じり岩片状」~「粘土質岩片状」を呈する。色調は灰黄色(2.5Y 7/2)、厚さ25mm。	・後軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した。 ・表現の適正化(やや、mm、1箇所、不詳⇒不明瞭)	35.36	35.46	●35.39~35.40m:粘土状部(Hc-1) 径47"で上下端とも直線的に連続する。上端の一部は不明瞭、径1~3mm石英粒10%含む軟質粘土(ガウジ)。色調は灰白(1.5YR 8/1)~灰褐色(7.5YR 6/2)で不明瞭な細かい縞模様を呈する。厚さ12~15mm。	
137	35.39	35.40	Hc-1 47"で上下端とも波打って連続。上端の一部は不明瞭。径1~3mm石英粒10%含む軟質粘土(ガウジ)。色調は灰白(1.5YR 8/1)~灰褐色(7.5YR 6/2)で不明瞭な細かい縞模様を呈する。厚さ12~15mm。	35.39	35.40	Hc-1 47"で上下端とも直線的に連続する。上端の一部は不明瞭。径1~3mm石英粒10%含む軟質粘土(ガウジ)。色調は灰白(1.5YR 8/1)~灰褐色(7.5YR 6/2)で不明瞭な細かい縞模様を呈する。厚さ12~15mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	・上下端の境界は概ね直線的であるため変更した。 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記・修正した。 ・色調の違いは見られるが、縞模様は呈していないので縞模様に関する記事を削除した。 ・表現の統一(ガウジ→Hc-1)も含んで表現。 ・表現の適正化(mm) ・縞模様の修正(「色」の記載漏れ)	35.36	35.46	●35.40~35.41m:粘土混じり岩片状~粘土質岩片状(H) 上端47"で直線的に、下端20~35"で湾曲して連続。径2~3mm石英粒、径5mmの粘土化岩片からなる。上端側の一部は晶洞中に石英が多く晶出し、マンガン鉱染も伴う。灰白~灰褐色を呈する。幅12~15mm。	
138	35.40	35.46	Hj 上端47"で波打って、下端20~35"で湾曲して連続。径2~3mm石英粒、径5mm粘土化岩片からなる。上端側の一部は晶洞中に石英が多く晶出し、マンガン鉱染も伴う。全体に「粘土混じりない粘土質岩片状」を呈する。色調は灰黄(2.5Y 7/2)~褐灰(10YR 4/1)、厚さ40~45mm。	35.40	35.46	Hj 上端47"で直線的に、下端20~35"で湾曲して連続。径2~3mm石英粒、径5mm粘土化岩片からなる。上端側の一部は晶洞中に石英が多く晶出し、マンガン鉱染も伴う。全体に「粘土混じりない粘土質岩片状」を呈する。色調は灰黄(2.5Y 7/2)~褐灰(10YR 4/1)、厚さ40~45mm。 やや軟質、含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	・上端の直線性を上記に合わせて変更した。 ・現状、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した。 ・表現の適正化(混じり、mm) ・縞模様の修正(「色」の記載漏れ)				
139	35.46	35.68	D 上下を破砕帯に囲まれ粘土化が進んでいる。	35.46	35.68	D 上下を破砕部に囲まれ粘土化が進んでいる。	・用語の統一(破砕帯→破砕部)	35.46	35.68	35.46~35.68m:D 上下を破砕部に囲まれ粘土化が進んでいる。	
140	35.68	35.73	破砕帯(主せん断面35.73m)	35.68	35.73	破砕部(最新活動面 35.73m)	・用語の統一(破砕帯→破砕部) ・最新活動面という用語に統一			●35.68~35.73m:破砕部 35.68~35.72m:粘土混じり塊状部(Hg) 上端27"の褐色軟質粘土で波打って、下端20"で不明瞭ながら波打って連続。径3~5mmの粘土化岩片主体、明褐色を呈する。幅35~50mm、35.72~35.73m:粘土質塊状部(Hb) 上端20"で波打って、下端12"で直線的に連続。径1~2mm石英粒を20%程度含む、やや軟質、淡黄色を呈する。幅10mm。 35.73m:粘土状部(Hc-1) 傾斜12"で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片を殆ど含まない(5%以下)。軟質。灰黄褐色を呈する。幅1~2mm。	・後軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
141	35.68	35.72	Hj 上端27"の褐色軟質粘土で波打って、下端20"で不明瞭ながら波打って連続。径3~5mmの粘土化岩片主体で「粘土混じり塊状」を呈する。色調は明褐色(7.5YR 7/2)、厚さ35~50mm。	35.68	35.72	Hj 上端27"の褐色軟質粘土で波打って、下端20"で不明瞭ながら波打って連続。径3~5mmの粘土化岩片主体で「粘土混じり塊状」を呈する。色調は明褐色(7.5YR 7/2)、厚さ35~50mm。 やや軟質、含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	・基質の粘土化は少ないため破砕部内物質の名称を変更した。 ・現状、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した。 ・表現の適正化(mm) ・縞模様の修正(「色」の記載漏れ)				
142	35.72	35.73	Hb 上端20"で波打って、下端12"で直線的に連続。径1~2mm石英粒を20%程度含む半固結状の「粘土質塊状」を呈する。色調は淡黄色(2.5Y 8/3)、厚さ10mm。	35.72	35.73	Hb 上端20"で波打って、下端12"で直線的に連続。径1~2mm石英粒を20%程度含むやや軟質半固結状の「粘土質塊状」を呈する。色調は淡黄色(2.5Y 8/3)、厚さ10mm。 含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	・塊主体であるため破砕部内物質の名称を変更した。 ・粘土化が進んでいるため硬軟を変更した。 ・細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した。 ・表現の適正化(mm)	35.68	35.73		
143	35.73	35.73	Hc-1 12"で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片を殆ど含まない(5%以下)軟質粘土(ガウジ)。色調は灰黄褐色(10YR 6/2)、厚さ1~2mm。	35.73	35.73	Hc-1 12"で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片を殆ど含まない(5%以下)軟質粘土(ガウジ)。色調は灰黄褐色(10YR 6/2)、厚さ1~2mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した。 ・表現の統一(ガウジ→Hc-1)も含んで表現。 ・表現の適正化(mm) ・縞模様の修正(「色」の記載漏れ)				
144	35.68	35.92	D 上下を破砕帯に囲まれ、粘土化が進んでいる。	35.68	35.92	D 上下を破砕部に囲まれ、粘土化が進んでいる。	・用語の統一(破砕帯→破砕部)	35.68	35.92	35.68~35.92m:D 上下を破砕部に囲まれ、粘土化が進んでいる。	

# H27-B-2 35.92~41.81m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それと変更点)			
記事	記事	記事	記事	記事	記事	記事	記事	記事				
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事	記事	記事	記事	記事			
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事	記事	記事	記事	記事			
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事	記事	記事	記事	記事			
145	35.92	35.95	破砕帯(主せん断面35.92m)	35.92	35.95	破砕帯(最新活動面35.92m)	用箱の統一(破砕帯→破砕部) 最新活動面という用語に統一	●35.92~35.95m:破砕部 35.92m:粘土状部(Hc-1) 傾斜35°で上下端とも小さく波打って膨縮しながら連続。石英粒。岩片は殆んど含まない(5%以下)半面 幅状の粘土(ガウジ)。色調は灰オリーブ(4.5Y 6/2)。厚さ1~5mm/m	・連続。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無。塊表面や細粒部の連続性・直線性。最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。			
145	35.92	35.92	Hc-1 35°で上下端とも小さく波打って膨縮しながら連続。石英粒。岩片は殆んど含まない(5%以下)半面幅状の粘土(ガウジ)。色調は灰オリーブ(4.5Y 6/2)。厚さ1~5mm/m	35.92	35.92	Hc-1 35°で上下端とも小さく波打って膨縮しながら連続して直線性に乏しい。石英粒。岩片は殆んど含まない(5%以下)やや硬質な半面幅状の粘土(ガウジ)。色調は灰オリーブ(4.5Y 6/2)。厚さ1~5mm/m	・細粒部の連続性・直線性について追記した ・表現の統一(ガウジ→Hc-1に含んで表現) ・表現の適正化(mm, 半面幅状⇒やや硬質な) ・誤記の修正(「色」の記載漏れ)	●35.92~35.95m:塊質砂状~粘土質塊状部(Hb) 上端35°、下端45°でいずれも小さく波打って連続。径1~2mmの石英粒。径2~5mmの粘土化岩片を20~30%含む。やや硬質。上位のHc-1の粘土と平行方向に幅1mm以下の灰赤色粘土細断が散発分布。灰白色を呈する。幅20mm。				
147	35.92	35.95	Hb 上端35°、下端45°でいずれも小さく波打って連続。径1~2mmの石英粒。径2~5mmの粘土化岩片を20~30%含む半面幅状の「塊質粘土状」を呈する。主せん断面と平行方向に幅1mm以下の灰赤色粘土細断が散発分布。色調は灰白色(2.5Y 6/2)。厚さ20m/m	35.92	35.95	Hb 上端35°、下端45°でいずれも小さく波打って連続。径1~2mmの石英粒。径2~5mmの粘土化岩片を20~30%含むやや硬質な半面幅状の「塊質砂状~粘土質塊状」を呈する。上位のHc-1の粘土と平行方向に幅1mm以下の灰赤色粘土細断が散発分布。色調は灰白色(2.5Y 6/2)。厚さ20mm。 含まれる細粒部は粗目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	・砂または塊主体であるため破砕部内物質の名称を変更した ・細粒部の連続性・直線性。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・主せん断面は詳細結果であるため記載しないこととし、上位のHc-1の粘土に変更した ・表現の適正化(mm, 半面幅状⇒やや硬質な)					
148	35.95	36.76	D	-	-	-	-	35.95	36.76	35.95~36.76m: D	-	
149	-	36.05	36.05m以下は粘土化進み岩組織が消滅している。	-	-	-	-	-	36.05	36.05	36.05m以下は粘土化が進み原岩組織は消滅している。	-
150	36.05	-	36.05m以下、割れ目、岩組織ともに残留。	-	-	-	-	36.05	-	36.05m以下は割れ目、原岩組織ともに残留する。	-	
151	36.60	36.70	マンガン鉱染が著しい。	-	-	-	-	36.60	36.70	36.60~36.70m: マンガン鉱染が著しい。	-	
152	36.76	37.12	CL 割れ目ぞいに砂状化する部分もある。	36.76	37.12	CL 割れ目ぞいに砂状化する部分もある。	・表現の適正化(扱い)	36.76	37.12	36.76~37.12m: CL 割れ目ぞいに砂状化する部分もある。	-	
153	37.12	37.60	CM 岩片は硬いが(硬さ「B」)。一部の割れ目で幅1~3mmと薄く砂状化する。	37.12	37.60	CL 岩片は硬いが(硬さ「C」)。一部の割れ目で幅1~3mmと薄く砂状化する。	・コアはやや硬質であるためコアの硬さのランクをCLに変更した ・上記の変更に伴い、岩級を変更した ・表現の適正化(mm)	37.12	37.60	37.12~37.60m: CL 岩片は硬いが(硬さ「C」)。一部の割れ目は幅1~3mmで薄く砂状化する。	-	
154	37.12	37.60	(コアの硬さ欄)Oランク (岩級区分欄)CM	37.12	37.60	(コアの硬さ欄)Oランク (岩級区分欄)CL	・コアはやや硬質であるためコアの硬さのランクをOランクに変更した ・上記の変更に伴い、岩級を変更した	37.12	37.60	(コアの硬さ欄)Oランク (岩級区分欄)CL	-	
155	37.12	45.96	(実質欄)3ランク	37.12	45.96	(実質欄)2ランク	・実質の程度が弱いため実質のランクを2ランクに変更した	37.12	45.96	(実質欄)2ランク	-	
156	37.60	38.05	CL 割れ目ぞいに幅10mm程度で風化が進行している。	37.60	38.05	CL 割れ目ぞいに幅10mm程度で風化が進行している。	・表現の適正化(扱い, mm, と⇒で)	37.60	38.05	37.60~38.05m: CL 割れ目ぞいに幅10mm程度で風化が進行している。	-	
157	38.05	38.46	(割れ目状態欄)Oランク (岩級区分欄)CM	38.05	38.46	(割れ目状態欄)Oランク (岩級区分欄)CL	・挟持物を伴う割れ目が多いため割れ目状態のランクをOランクに変更した ・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた	38.05	38.46	(割れ目状態欄)Oランク (岩級区分欄)CLに含める	-	
158	38.05	38.46	CM 岩片は硬質で割れ目少なく、割れ目には挟持物は含まない。	38.05	38.46	CM 岩片は硬質で割れ目少なく、割れ目には粘土や砂を挟む。	・割れ目に粘土や砂を挟むため変更した	38.05	38.46	38.05~38.46m: CM 岩片は硬質で割れ目が少ないが、割れ目には粘土や砂を挟む。	-	
159	38.46	39.78	CL	-	-	-	-	38.46	39.78	38.46~39.78m: CL	-	
160	39.60	39.69	硬さ「D」ないし「E」で、上縁側は砂状化している。	-	-	-	-	39.60	39.69	39.60~39.69m: 硬さ「D」ないし「E」で、上縁側は砂状化している。	-	
161	38.46	39.37	(風化欄)Oランク	38.46	39.37	(風化欄)Aランク	・風化の程度はやや弱いため風化のランクをAランクに変更した	38.46	39.37	(風化欄)Aランク	-	
162	39.37	39.78	(コアの硬さ欄)Oランク	39.37	39.78	(コアの硬さ欄)Oランク	・コアは軟質であるためコアの硬さのランクをOランクに変更した	39.37	39.78	(コアの硬さ欄)Oランク	-	
163	39.78	40.23	D 原岩組織と割れ目は残留。一部で割れ目ぞいに厚さ5~10mm/mで砂状化。	39.78	40.23	D 原岩組織と割れ目は残留。一部で割れ目ぞいに厚さ5~10mmで砂状化。	・表現の適正化(原岩組織, 扱い, mm)	39.78	40.23	39.78~40.23m: D 原岩組織と割れ目は残留。一部の割れ目ぞいに幅5~10mmで砂状化。	-	
164	39.78	40.23	(岩級区分欄)D	39.78	40.23	(岩級区分欄)CL	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた	39.78	40.23	(岩級区分欄)CLに含める	-	
165	40.23	41.90	CL 20~40°割れ目が主体。一部の割れ目は消滅しかかっているものもある。割れ目には薄く砂、粘土、マンガンを含み込むことが多い。	40.23	41.90	CL 20~40°割れ目が主体。一部の割れ目は消滅しかかっているものもある。割れ目には薄く砂、粘土、マンガンを含み込むことが多い。	・表現の適正化(含む)	40.23	41.90	40.23~41.90m: CL 20~40°割れ目が主体。一部の割れ目は消滅しかかっているものもある。割れ目には薄く砂、粘土、マンガンを含み込むことが多い。	-	
166	-	-	-	40.30	40.80	高角度割れ目ぞいにマンガン濃染が見られる	・マンガン濃染を伴う高角度割れ目は周囲と異なる状況であるため追記した	40.30	40.80	40.30~40.80m: 高角度割れ目ぞいにマンガン濃染が見られる。	-	
167	41.70	41.81	φ5~10mm/mlに球状化するが、これはコアチューブ引き上げ時に砕けたものである	41.70	41.81	φ5~10mm/mlに球状化するが、これはコアチューブ引き上げ時に砕けたものである	・表現の適正化(mm)	41.70	41.81	41.70~41.81m: コアチューブ引き上げ時の擾乱で、径5~10mmに球状化する。	-	



# H27-B-2 41.90~48.88m

No.	コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	記事	
			記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
166	41.90	43.94	D 強風化により割れ目ぞいの砂状化が拡大。結った砂状部と硬さDのφ10~20mm岩片からなる「砂礫状」を呈する部分が主体。岩組織や割れ目の一部は残留している。部分的に粘土化部やマンガン鉱染部も伴う。	41.90	43.94	D 強風化により割れ目ぞいの砂状化が拡大。硬質な砂状部と硬さDのφ10~20mm岩片からなる「砂礫状」を呈する部分が主体。原岩組織や割れ目の一部は残留している。部分的に粘土化部やマンガン鉱染部も伴う。	・表現の適正化(治い)。結った⇒硬質な。mm。原岩組織) ・転記の修正('J'の記載漏れ)	41.90	43.94	41.90~43.94m: D 強風化により割れ目ぞいの砂状化が拡大。硬質な砂状部と硬さDの径10~20mmの岩片からなる砂礫状を呈する部分が主体。原岩組織や割れ目の一部は残留している。部分的に粘土化部やマンガン鉱染部も伴う。	
169	-	-	-	42.30	42.30	45°の割れ目に幅10mmの灰黄色粘土を挟在する。	・灰黄色粘土を挟在する割れ目は圏圏と異なる状況であるため追記した	42.30	42.30	42.30m: 45°の割れ目に幅10mmの灰黄色粘土を挟在する。	
170	43.09	43.30	硬さ「D」が中石的に残留している。	-	-	-		43.09	43.30	43.09~43.30m及び43.50~43.71m: 硬さ「D」が中石的に残留している。	・硬さDを中石的に残留する区間をまとめて書きした
171	43.09	43.30	(コアの硬さ欄)Eランク	43.09	43.30	(コアの硬さ欄)Dランク	・上記に合わせてコアの硬さのランクをDランクに変更した	43.09	43.30	(コアの硬さ欄)Dランク	
172	43.50	43.71	硬さ「D」が中石的に残留している。	-	-	-		-	-	-	・上記にまとめて書きしたため記載しない
173	43.50	43.71	(コアの硬さ欄)Eランク	43.50	43.71	(コアの硬さ欄)Dランク	・上記に合わせてコアの硬さのランクをDランクに変更した	43.50	43.71	(コアの硬さ欄)Dランク	
174	43.46	43.55	割れ目ぞいにマンガン鉱染が著しい。色調は黒褐色化する。	43.46	43.55	割れ目ぞいにマンガン鉱染が著しい。色調は黒褐色化する。	・表現の適正化(治い)	43.46	43.55	43.46~43.55m: 割れ目ぞいのマンガン鉱染が著しい。黒褐色化を呈する。	
175	43.94	45.96	CL 割れ目ぞいに風化で砂状化が進む部分も含む。一部の岩片は硬さ「C」と硬質で残留する。	43.94	45.96	CL 割れ目ぞいに風化で砂状化が進む部分も含む。一部の岩片は硬さ「C」と硬質で残留する。	・表現の適正化(治い)	43.94	45.96	43.94~45.96m: CL 割れ目ぞいに風化で砂状化が進む部分も含む。一部の岩片は硬さ「C」と硬質で残留する。	
176	44.77	44.77	45° 割れ目ぞい幅20~25mmは淡緑灰色化する。緑泥石化顕著と推定される。	44.77	44.77	45° 割れ目ぞい幅20~25mmは淡緑灰色化する。緑泥石化顕著と推定される。	・表現の適正化(治い。mm)	44.77	44.77	44.75m: 45°の割れ目ぞいに幅20~25mmで緑泥石化顕著により淡緑灰色化する。	
177	45.10	45.25	硬さ「C」の硬質岩片が分布	-	-	-		45.10	45.25	45.10~45.25m: 硬さ「C」の硬質岩片が分布。	
178	45.10	45.25	(コアの硬さ欄)Dランク	45.10	45.25	(コアの硬さ欄)Cランク	・上記に合わせてコアの硬さのランクをCランクに変更した	45.10	45.25	(コアの硬さ欄)Cランク	
179	45.96	46.31	硬さ「C」で硬質。割れ目は厚さ1~3mm程度で砂状化する。	45.96	46.31	硬さ「C」で硬質。割れ目は厚さ1~3mm程度で砂状化する。	・表現の適正化(mm)	45.96	46.31	45.96~46.31m: 硬さ「C」で硬質。割れ目は幅1~3mm程度で砂状化する。	
180	46.31	46.49	割れ目状懸濁Vランク (コアの形状欄)Vランク (コアの硬さ欄)Eランク	46.31	46.49	割れ目状懸濁Vランク (コアの形状欄)Vランク (コアの硬さ欄)Eランク	・コアに合わせて割れ目状態、コアの形状、コアの硬さのランクを変更した	46.31	46.49	割れ目状懸濁Vランク (コアの形状欄)Vランク (コアの硬さ欄)Eランク	
181	46.31	47.90	(実質欄)Bランク	46.31	47.90	(実質欄)Dランク	・圏間と同様な実質の程度であるため実質のランクをDランクに変更した	46.31	47.90	(実質欄)Dランク	
182	46.73	46.90	(割れ目状懸濁)Vランク (コアの形状欄)Vランク (コアの硬さ欄)Eランク	46.73	46.90	割れ目状懸濁Vランク (コアの形状欄)Vランク (コアの硬さ欄)Eランク	・コアに合わせて割れ目状態、コアの形状、コアの硬さのランクを変更した	46.73	46.90	割れ目状懸濁Vランク (コアの形状欄)Vランク (コアの硬さ欄)Eランク	
183	46.73	47.06	(岩級区分欄)CL	46.73	47.06	(岩級区分欄)D	・上記の変更に伴い、岩級を変更した	46.73	47.06	(岩級区分欄)D	
184	46.74	46.85	割れ目ぞいに砂状化進み、硬さ「E」が主体。	46.73	46.85	割れ目ぞいに砂状化進み、硬さ「E」が主体。	・コアに合わせて上端深度を変更した ・表現の適正化(治い)	46.73	46.85	46.73~46.85m: 割れ目ぞいに砂状化が進み、硬さ「E」が主体。	
185	46.90	47.06	(コアの硬さ欄)Dランク	46.90	47.06	(コアの硬さ欄)Cランク	・記事欄の記載と整合しないため、変更した	46.90	47.06	(コアの硬さ欄)Cランク	
186	47.90	47.06	珪化により二次石英がφ1~3mm/斑点状~幅1~2mmの脈状で晶出し、全体が硬さ「C」と硬質。	46.90	47.06	珪化により二次石英がφ1~3mm/斑点状~幅1~2mmの脈状で晶出し、全体が硬さ「C」と硬質。	・表現の適正化(mm) ・転記の修正(47.90⇒46.90)	46.90	47.06	46.90~47.06m: 珪化による二次石英が径1~3mmの斑点状~幅1~2mmの脈状で晶出し、全体が硬さ「C」と硬質。	
187	47.06	47.50	D 岩組織と割れ目は消滅している。硬さ「D」主体のφ3~10mmの粗岩片化している。	46.73	47.50	D 原岩組織と割れ目は消滅している。硬さ「D」主体のφ3~10mmの粗岩片化している。	・上記の変更に伴い、D級の上端深度を変更した ・表現の適正化(原岩組織。mm)	46.73	47.50	46.73~47.50m: D 原岩組織と割れ目は消滅している。硬さ「D」主体の径3~10mmに粗岩片化している。	
188	47.50	48.80	CL 47.85m以浅は硬さ「D」主体。47.85m以深は硬さ「C」主体で、47.85m以浅は風化で割れ目ぞいの一部で砂状化進み、岩片自身も軟質化している。	47.50	48.08	CL 47.85m以浅は硬さ「D」主体。47.85m以深は硬さ「C」主体で、47.85m以浅は風化で割れ目ぞいの一部で砂状化進み、岩片自身も軟質化している。	・コアの上下を入れ直したため、入れ直し後の深度に変更した ・表現の適正化(治い)	47.50	48.08	47.50~48.08m: CL 47.85m以浅は硬さ「D」主体。47.85m以深は硬さ「C」主体で、47.85m以浅は風化で割れ目ぞいの一部は砂状化が進み、岩片自身も軟質化している。	
189	47.85	48.08	(風化欄)Aランク	47.85	48.08	(風化欄)Aランク	・風化の程度はやや弱いため風化のランクをAランクに変更した	47.85	48.08	(風化欄)Aランク	
190	48.08	48.12	割れ目状懸濁Vランク (コアの形状欄)Vランク (コアの硬さ欄)Eランク (実質欄)Bランク	48.08	48.12	割れ目状懸濁Vランク (コアの形状欄)Vランク (コアの硬さ欄)Eランク (実質欄)Aランク	・コアに合わせて割れ目状態、コアの形状、コアの硬さ、実質のランクを変更した ・48.88~48.92m⇒48.08~48.12m: コアの上下が入れ替わっていたため修正	48.08	48.12	割れ目状懸濁Vランク (コアの形状欄)Vランク (コアの硬さ欄)Eランク (実質欄)Aランク	
191	48.12	48.16	上端38°、下端20°の割れ目に囲まれ結った砂状化を呈する。	48.84	48.88	上端20°、下端38°の割れ目に囲まれ硬質な砂状化を呈する。	・コアの上下を入れ直したため、入れ直し後の深度に変更した 上下が入れ替わったので上端と下端の傾斜も入れ替えた ・表現の適正化(結った⇒硬質な)	48.84	48.88	48.84~48.88m: 上端20°、下端38°の割れ目に囲まれ硬質な砂状化を呈する。	

# H27-B-2 48.12~50.67m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)		
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事を削除・変更・追記した理由	上端深度	下端深度		選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>						
192	48.12	48.52	(風化層)δランク	48.12	48.52	(風化層)γランク	・風化の程度はやや弱いため風化のランクをγランクに変更した	48.12	48.52	(風化層)γランク	-
193	48.40	48.49	48.40~48.49mも上記同様へ締った砂状化呈する。	48.51	48.60	硬質な砂状化呈する。	・コアの上下を入れ直したため、入れ直し後の深度に変更した ・表現の適正化(締った⇒硬質な)	48.51	48.60	48.51~48.60m:硬質な砂状化を呈する。	-
194	48.49	48.88	60~70° 割れ目主体。割れ目に砂や粘土の挟在物が分布する。(これら割れ目は主せん断面と同方向に近い)	48.12	48.51	60~70° 割れ目主体。割れ目に砂や粘土の挟在物が分布する。(これら割れ目は上位の破砕部と同方向に近い)	・コアの上下を入れ直したため、入れ直し後の深度に変更した ・主せん断面は評価結果であるため記載せず。上位の破砕部に変更した	48.12	48.51	48.12~48.51m:60~70°の割れ目が主体。割れ目に砂や粘土の挟在物が分布する。これらの割れ目は上位の破砕部と同方向に近い。	-
195	48.52	48.85	(割れ目状態)δランク (コアの形状)IVランク (コアの硬さ)Cランク	48.52	48.85	(割れ目状態)δランク (コアの形状)IVランク (コアの硬さ)Cランク	・コアに合わせて割れ目状態、コアの形状、コアの硬さのランクを変更した	48.52	48.85	(割れ目状態)δランク (コアの形状)IVランク (コアの硬さ)Cランク	-
196	48.85	49.08	(風化層)δランク	48.85	49.08	(風化層)γランク	・風化の程度はやや弱いため風化のランクをγランクに変更した	48.85	49.08	(風化層)γランク	-
197	48.88	48.92	(割れ目状態)δランク (コアの形状)IVランク (コアの硬さ)Cランク (実質層)δランク (岩線区分)D	48.88	48.92	(割れ目状態)δランク (コアの形状)IVランク (コアの硬さ)Cランク (実質層)δランク (岩線区分)CL	・コアに合わせて割れ目状態、コアの形状、コアの硬さ、実質層、岩線のランクを各ランクに変更した ・48.88~48.92m~48.08~48.12m コアの上下が入れ替わっていたため修正	48.88	48.92	(割れ目状態)δランク (コアの形状)IVランク (コアの硬さ)Cランク (実質層)δランク (岩線区分)CL	-
198	48.88	48.88	(破砕度区分)Hc-2	48.88	48.88	(破砕度区分)空欄	・48.88~48.92m~48.08~48.12m コアの上下が入れ替わっていたため修正	48.88	48.88	(破砕度区分)-	-
199	48.88	48.92	(破砕度区分)Hb	48.88	48.92	(破砕度区分)空欄	・48.88~48.92m~48.08~48.12m コアの上下が入れ替わっていたため修正	48.88	48.92	(破砕度区分)-	-
200	48.88	48.92	破砕帯(主せん断面48.88m)	48.08	48.12	破砕部(最新活動面48.12m)	・用語の統一(破砕帯⇒破砕部) ・最新活動面という用語に統一 ・48.08~48.92m~48.08~48.12m コアの上下が入れ替わっていたため修正 ・コアを入れ替え後の最新活動面深度を記載した	48.08	48.12	●48.08~48.12m:破砕部 48.08~48.12m:粘土質礫状部(Hb) 上端58°、下端56°でいずれも直線的に連続。径1~3mmの石英粒、径3~5mmの硬さD)岩片を20~30%含む。やや硬質な「粘土質礫状」を呈する。上端部にマンガン鉱染を伴う。色調は黒褐色(10YR 4/2)~黒褐色(10YR 3/1)。下端部のみ、厚さ20mm。 傾斜56°で上下端とも直線的に連続。径0.5~1mmの石英粒を20%程度含む。やや硬質。マンガン鉱染を伴っている。	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性、直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
201	48.88	48.92	Hb 上端58°、下端56°でいずれも直線的に連続。φ1~3mm石英粒、φ3~5mm硬さD)岩片を20~30%含む。やや硬質な「粘土質礫状」を呈する。上端部にマンガン鉱染を伴う。色調は黒褐色(10YR 4/2)~黒褐色(10YR 3/1)。下端部のみ、厚さ20mm。	48.08	48.12	Hb 上端58°、下端56°でいずれも直線的に連続。φ1~3mm石英粒、φ3~5mm硬さD)岩片を20~30%含む。やや硬質な「粘土質礫状」を呈する。上端部にマンガン鉱染を伴う。色調は黒褐色(10YR 4/2)~黒褐色(10YR 3/1)。厚さ20mm。含まれる細粒部の連続性・直線性が強く、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織はマンガン汚染で不明。	・48.88~48.92m~48.08~48.12m コアの上下が入れ替わっていたためコアに合わせて深度を変更して記事を書き直した ・実質層であるため破砕部内物質の名称を変更した ・表現の適正化(半固結状⇒やや硬質な) ・礫を含むため破砕部内物質の名称を変更した ・表現の統一(ガウジーHc-2)に含んで表現した	48.08	48.12	●48.08~48.12m:破砕部 48.08~48.12m:粘土質礫状部(Hb) 上端58°、下端56°でいずれも直線的に連続。径1~3mmの石英粒、径3~5mmの硬さD)岩片を20~30%含む。やや硬質。上端部にマンガン鉱染を伴う。原質層・黒褐色(上端部のみ)を呈する。幅20mm。 48.12m:硬質し粘土状部(Hc-2) 傾斜56°で上下端とも直線的に連続。径0.5~1mmの石英粒を20%程度含む。やや硬質。マンガン鉱染を伴っている。	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性、直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
202	48.88	48.88	Hc-2 56°で上下端とも直線的に連続。φ0.5~1mmの石英粒を20%程度含む。半固結状の粘土(ガウジー)。色調は、黒褐色(10YR 3/1)。厚さ1mm。マンガン鉱染を伴っている。	48.12	48.12	Hc-2 56°で上下端とも直線的に連続。φ0.5~1mmの石英粒を20%程度含む。やや硬質な硬質し粘土(ガウジー)。色調は黒褐色(10YR 3/1)。厚さ1mm。マンガン鉱染を伴っている。	・48.88~48.92m~48.08~48.12m コアの上下が入れ替わっていたためコアに合わせて深度を変更して記事を書き直した ・表現の適正化(半固結状⇒やや硬質な) ・礫を含むため破砕部内物質の名称を変更した ・表現の統一(ガウジーHc-2)に含んで表現した	48.12	48.12	(破砕度区分)Hb	-
203	48.08	48.12	(破砕度区分)空欄	48.08	48.12	(破砕度区分)Hb	・48.88~48.92m~48.08~48.12m コアの上下が入れ替わっていたためコアに合わせて深度を変更した	48.08	48.12	(破砕度区分)Hb	-
204	48.12	48.12	(破砕度区分)空欄	48.12	48.12	(破砕度区分)Hc-2	・48.88~48.92m~48.08~48.12m コアの上下が入れ替わっていたためコアに合わせて深度を変更した	48.12	48.12	(破砕度区分)Hc-2	-
205	48.92	52.42	CL 概ね長さ5cm前後の短柱状コアが主体	48.12	52.42	CL 概ね長さ5cm前後の短柱状コアが主体	・48.88~48.92m~48.08~48.12m コアの上下が入れ替わっていたためコアに合わせて深度を変更した ・コアに合わせて下端深度を変更した	48.12	52.42	48.12~52.42m:CL 概ね長さ5cm前後の短柱状コアが主体。	-
206	49.00	49.34	割れ目そいに風化・砂状化が進み、コアチューブ引上げ時に乱され、外見は塊状コアを呈している。割れ目そいに風化で砂状化するものが主体。密着割れ目も風化でハンマーの打撃で分離し易い。硬さD)が主体であるが、風化で軟質化した硬さD)や逆に堅硬な硬さB)も含む。	49.00	49.34	割れ目そいに風化・砂状化が進み、コアチューブ引上げ時に乱され、外見は塊状コアを呈している。割れ目そいに風化で砂状化するものが主体。密着割れ目も風化でハンマーの打撃で分離し易い。硬さD)が主体であるが、風化で軟質化した硬さD)や逆に堅硬な硬さB)も含む。	・表現の適正化(乱れ、軟質化) ・直上の記事に同じ内容の記載があるため削除した	49.00	49.34	49.00~49.34m:割れ目そいに風化・砂状化が進み、コアチューブ引上げ時に乱され、塊状コアを呈している。密着割れ目も風化してハンマーの打撃で分離し易い。硬さD)が主体であるが、風化で軟質化した硬さD)や逆に堅硬な硬さB)も含む。	-
207	49.08	49.42	(コアの形状)IVランク (コアの硬さ)Cランク	49.08	49.42	(コアの形状)IVランク (コアの硬さ)Cランク	・周囲と比べて割れ目が多く、コアは軟質であるためコアの形状、コアの硬さのランクを変更した	49.08	49.42	(コアの形状)IVランク (コアの硬さ)Cランク	-
208	50.44	50.67	硬さB)で堅硬。上下端は砂状化している。	-	-	-	-	50.44	50.67	50.44~50.67m:硬さB)で堅硬。上下端は砂状化している。	-

# H27-B-2 50.44~54.77m

コア観察カード				適正化すべき記事内容				記事を削除・変更・追記した理由				報告書柱状図記事			
上端深度	下端深度	記事		上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	記事を削除・変更・追記した理由		上端深度	下端深度	記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか?				追加変更した情報が正しく転記されているか?				記事を削除・変更・追記した理由				選定した記事内容	
		<input checked="" type="checkbox"/>				<input checked="" type="checkbox"/>									
209	50.44	50.67	(コアの硬さ欄)Cランク	50.44	50.67	(コアの硬さ欄)Bランク	-上記に合わせてコアの硬さのランクをBランクに変更した	50.44	50.67	(コアの硬さ欄)Bランク	-				
210	50.11	50.44	(コアの形状欄)IVランク	50.11	50.44	(コアの形状欄)Vランク	-断面と比べて割れ目が多いためコアの形状のランクをVランクに変更した	50.11	50.44	(コアの形状欄)Vランク	-				
211	50.66	51.06	(コアの形状欄)IVランク	50.66	51.06	(コアの形状欄)Vランク	-断面と比べて割れ目が多いためコアの形状のランクをVランクに変更した	50.66	51.06	(コアの形状欄)Vランク	-				
212	50.81	51.06	(コアの硬さ欄)Cランク	50.81	51.06	(コアの硬さ欄)Dランク	-コアは軟質であるためコアの硬さのランクをDランクに変更した	50.81	51.06	(コアの硬さ欄)Dランク	-				
213	51.15	51.50	上下位よりも石英斑晶がφ5~15mmと大型化する(上下位例はφ5mm前後主体)。	51.15	51.50	上下位よりも石英斑晶がφ5~15mmと大型化する(上下位例はφ5mm前後主体)。	表現の適正化(mm)	51.15	51.50	51.15~51.50m 上下位よりも石英斑晶がφ5~15mmと大型化する(上下位例はφ5mm前後主体)。	-				
214	51.51	-	51.51m以深は風化が進み、割れ目ぞいの砂状化が広がる。φ10~30mm硬さ「D」岩片を含む「砂礫状」を呈する部分もある。	51.51	-	51.51m以深は風化が進み、割れ目ぞいの砂状化が広がる。φ10~30mm硬さ「D」岩片を含む「砂礫状」を呈する部分もある。	表現の適正化(沿い、mm)	51.51	-	51.51m以深は風化が進み、割れ目ぞいの砂状化が広がる。径10~30mmの硬さ「D」岩片を含む「砂礫状」を呈する部分もある。	-				
215	51.51	52.42	(変質欄)3ランク	51.51	52.42	(変質欄)2ランク	-断面と同程度の変質であるため変質のランクを2ランクに変更した	51.51	52.42	(変質欄)2ランク	-				
216	52.18	52.22	「細礫混じり粗粒砂」状呈する	52.18	52.22	「細礫混じり粗粒砂」状を呈する(コアチューブの引き上げ箇所)	-コアチューブの引き上げ箇所を追記した	52.18	52.22	52.18~52.22m コアチューブ引き上げ部で、細礫混じり粗粒砂状を呈する。	-				
217	52.42	52.99	CM岩片は硬質であるが一部に密着度の低い割れ目も含んでいる。割れ目は厚さ2~3mmで砂状化することが多い。	52.42	52.99	CM岩片は硬質であるが一部に密着度の低い割れ目も含んでいる。割れ目は厚さ2~3mmで砂状化することが多い。	表現の適正化(mm)	52.42	52.99	52.42~52.99m CM岩片は硬質であるが、一部に密着度の低い割れ目も含んでいる。割れ目は厚さ2~3mmで砂状化することが多い。	-				
218	52.99	53.20	CL割れ目ぞいに砂状化進む。消滅しかかっている割れ目が多い。	52.99	53.20	CL割れ目ぞいに砂状化進む。消滅しかかっている割れ目が多い。	表現の適正化(沿い)	52.99	53.20	52.99~53.20m CL割れ目ぞいに砂状化が進む。消滅しかかっている割れ目が多い。	-				
219	52.99	53.20	(岩級区分欄)CL	52.99	53.20	(岩級区分欄)D	-区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた	52.99	53.20	(岩級区分欄)Dに含める	-				
220	52.99	54.60	(変質欄)3ランク	52.99	54.60	(変質欄)2ランク	-上位と同様な変質の程度であるため変質のランクを2ランクに変更した	52.99	54.60	(変質欄)2ランク	-				
221	53.20	53.55	(風化欄)eランク	53.20	53.55	(風化欄)dランク	-断面と同様な風化の程度であるため風化のランクをdランクに変更した	53.20	53.55	(風化欄)dランク	-				
222	53.20	53.55	D岩組織は残留するが、割れ目は消滅するか、しかかっているものが多い。硬さ「D」のφ10mm程度の岩片が散在している。	53.20	53.55	D岩組織は残留するが、割れ目は消滅するか、しかかっているものが多い。硬さ「D」のφ10mm程度の岩片が散在している。	表現の適正化(原岩組織、mm)	53.20	53.55	53.20~53.55m D岩組織は残留するが、割れ目は消滅するか、しかかっているものが多い。硬さ「D」のφ10mm程度の岩片が散在している。	-				
223	53.55	54.10	CL一部で硬さ「C」岩片も含まみ全体不均質。長石は大半が白濁化する。	-	-	-	-	53.55	54.10	53.55~54.10m CL一部で硬さ「C」岩片も含まみ全体が不均質。長石は大半が白濁化する。	-				
224	54.10	54.72	D風化で砂状化著しい	-	-	-	-	54.10	54.72	54.10~54.72m D風化で砂状化が著しい。	-				
225	54.37	54.46	硬さ「E」の岩片が残留する。	54.37	54.46	硬さ「D」の岩片が残留する。	-誤記の修正(硬さE⇒硬さD)	54.37	54.46	54.37~54.46m 硬さ「D」の岩片が残留する。	-				
226	54.37	54.46	(コアの硬さ欄)Eランク	54.37	54.46	(コアの硬さ欄)Dランク	-上記に合わせてコアの硬さのランクをDランクに変更した	54.37	54.46	(コアの硬さ欄)Dランク	-				
227	54.60	-	54.60m以深では粘土化が進む。	-	-	-	-	54.60	-	54.60m以深は粘土化が進む。	-				
228	54.60	55.00	(変質欄)4ランク	54.60	54.72	(変質欄)3ランク	-変質の程度がやや強い変質のランクを3ランクに変更した	54.60	54.72	(変質欄)3ランク	-				
229	54.72	54.77	破砕帯(主せん断面、54.77m)	54.72	54.77	破砕帯(最新活動面、54.77m)	-用語の統一(破砕帯⇒破砕部) -最新活動面という用語に統一	54.72	54.77	●54.72~54.77m:破砕部 54.72~54.77m:粘土質硬砂部(Hb) 上端46°で波打ち、下端39°で直線的に連続。径2~4mmの石英粒と粘土化した径5~10mmの岩片を30~50%含む軟質な「粘土質硬砂」を呈する。マンガン鉱染を一部に伴う。明褐色を呈する。幅40~50mm。 54.77m:粘土状部(Hc-1) 傾斜39°で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片は殆んど含まない(5%以下)。軟質。灰褐色を呈する。幅3mm。	-				
230	54.72	54.77	Hb上端46°で波打ち、下端39°で直線的に連続。φ2~4mm石英粒と粘土化したφ5~10mm岩片を30~50%含む軟質な「粘土質硬砂」を呈する。マンガン鉱染を一部に伴う。明褐色(5YR 7/2)。厚さ40~50m	54.72	54.77	Hb上端46°で波打ち、下端39°で直線的に連続。φ2~4mm石英粒と粘土化したφ5~10mm岩片を30~50%含む軟質な「粘土質硬砂」を呈する。マンガン鉱染を一部に伴う。明褐色(5YR 7/2)。厚さ40~50mm。含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	-硬質主体であるため破砕部内物質の名称を変更した -細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した -表現の適正化(mm) -誤記の修正(「c」の記載漏れ、単位の記載ミス(mm))	54.72	54.77	●54.72~54.77m:破砕部 54.72~54.77m:粘土質硬砂部(Hb) 上端46°で波打ち、下端39°で直線的に連続。径2~4mmの石英粒と粘土化した径5~10mmの岩片を30~50%含む軟質な「粘土質硬砂」を呈する。マンガン鉱染を一部に伴う。明褐色を呈する。幅40~50mm。 54.77m:粘土状部(Hc-1) 傾斜39°で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片は殆んど含まない(5%以下)。軟質。灰褐色を呈する。幅3mm。	-				
231	54.77	54.77	Hc-139°で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片は殆んど含まない(5%以下)軟質粘土(ガウジ)。色調は灰褐色(7.5YR 5/2)。厚さ3mm	54.77	54.77	Hc-139°で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片は殆んど含まない(5%以下)軟質粘土(ガウジ)。色調は灰褐色(7.5YR 5/2)。厚さ3mm。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	-原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した -表現の統一(ガウジ⇒Hc-1)に含んで表現 -表現の適正化(mm) -誤記の修正(「c」の記載漏れ)	54.77	54.77	Hc-139°で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片は殆んど含まない(5%以下)軟質粘土(ガウジ)。色調は灰褐色(7.5YR 5/2)。厚さ3mm。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	-				

# H27-B-2 54.77~60.26m

No.	コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
			記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示) 通知変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
232	54.77	55.24	D 全体に粘土化進む。	-	-	-		54.77	55.24	54.77~55.24m: D 全体に粘土化が進む。	-
233	-	55.00	55.00m以浅では岩片やマンガン鉱染部を脈状に含む。	-	-	-		-	55.00	55.00m以浅は岩片やマンガン鉱染部を脈状に含む。	-
234	55.00	-	55.00m以深では白色粘土化部や赤灰色粘土細脈を多く含む。	-	-	-		55.00	-	55.00m以深は白色粘土化部や赤灰色粘土細脈を多く含む。	-
235	55.24	57.70	CL 硬さ「D」岩片が主体 割れ目ぞいに風化が進む部分では硬さ「E」や硬質な砂状部も分布する。 割れ目ぞいにマンガン鉱染を受け、割れ目面とその周辺は黒褐色化することが多い。	55.24	57.70	CL 硬さ「D」岩片が主体 割れ目ぞいに風化が進む部分では硬さ「E」や硬質な砂状部も分布する。 割れ目ぞいにマンガン鉱染を受け、割れ目面とその周辺は黒褐色化することが多い。	・表現の適正化(古い、締った⇒硬質な)	55.24	57.70	55.24~57.70m: CL 硬さ「D」岩片が主体、割れ目ぞいに風化が進む部分では硬さ「E」や硬質な砂状部も分布する。割れ目ぞいにマンガン鉱染を受け、割れ目面とその周辺は黒褐色化することが多い。	-
236	55.24	60.26	(実質欄)3ランク	55.24	60.26	(実質欄)2ランク	・実質の程度がやや弱いため実質のランクを2ランクに変更した	55.24	60.26	(実質欄)2ランク	-
237	56.83	57.00	割れ目ぞいの風化が進み、砂状化、残留する硬さDのφ5~10mm岩片とともに外見上は砂礫状を呈する。	56.83	57.00	割れ目ぞいの風化が進み、砂状化、残留する硬さDのφ5~10mm岩片とともに外見上は砂礫状を呈する。	・表現の適正化(古い、mm) ・文章の適正化(コア観察は外見を観察しているため削除)	56.83	57.00	56.83~57.00m: 割れ目ぞいの風化が進み、砂状化する。残留する硬さ「D」のφ5~10mmの岩片とともに砂礫状を呈する。	-
238	57.00	57.45	密着度の低い割れ目が密集し、φ10mm/m程度に細岩片の硬さは、硬さ「C」と硬質なものも多く含む。	57.00	57.45	密着度の低い割れ目が密集し、φ10mm程度に細岩片の硬さは、硬さ「C」と硬質なものも多く含む。	・表現の適正化(mm) ・表記の修正(細岩片⇒細岩片化)	57.00	57.45	57.00~57.45m: 密着度の低い割れ目が密集し、φ10mm程度に細岩片化する。硬さ「C」の岩片も多く含む。	-
239	57.45	57.70	割れ目ぞいに砂状化が進み、全体に上位より軟質化が進む。	57.45	57.70	割れ目ぞいに砂状化が進み、全体に上位より軟質化が進む。	・表現の適正化(古い、軟質化)	57.45	57.70	57.45~57.70m: 割れ目ぞいに砂状化が進み、全体に上位より軟質化が進む。	-
240	57.70	57.99	(コアの硬さ欄)3ランク (岩級区分欄)D	57.70	57.99	(コアの硬さ欄)2ランク (岩級区分欄)CL	・コアは軟質であるためコアの硬さのランクを2ランクに変更した ・上記の変更に伴い、岩級を変更した	57.70	57.99	(コアの硬さ欄)2ランク (岩級区分欄)CL	-
241	57.70	57.99	D 岩組織と割れ目は残留するが、全体に風化による砂状化部が拡大し、締った砂状部が主体である。	57.70	57.99	CL 原岩組織と割れ目は残留するが、全体に風化による砂状化部が拡大し、一部は硬質な砂状部となる。	・上記の変更に伴い、岩級を変更した ・表現の適正化(原岩組織 締った⇒硬質な) ・砂状部は局所的であるため変更した	57.70	57.99	57.70~57.99m: CL 原岩組織と割れ目は残留するが、全体に風化による砂状化部が拡大し、一部は硬質な砂状部となる。	-
242	57.99	58.28	CL 岩片は硬さが20~30° 割れ目が10~30mmの間隔で同方向に発達。 マンガン鉱染も伴う。	57.99	58.28	CL 岩片は硬さが20~30° 割れ目が10~30mmの間隔で同方向に発達。 マンガン鉱染も伴う。	・表現の適正化(mm)	57.99	58.28	57.99~58.28m: CL 岩片は硬さが、20~30° の割れ目が10~30mmの間隔で同方向に発達。マンガン鉱染も伴う。	-
243	58.28	58.73	CM マンガン鉱染で割れ目は黒褐色化するが、砂や粘土などの挟在物は分布しない。	-	-	-		58.28	58.73	58.28~58.73m: CM マンガン鉱染で割れ目は黒褐色化するが、砂や粘土などの挟在物は分布しない。	-
244	58.28	58.73	(岩級区分欄)CM	58.28	58.73	(岩級区分欄)CL	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた	58.28	58.73	(岩級区分欄)CLに含める	-
245	58.73	59.71	CL 割れ目ぞいに砂状化し、密着度の低い割れ目も多い。全体として脆い。	58.73	59.71	CL 割れ目ぞいに砂状化し、密着度の低い割れ目も多い。全体として脆い。	・表現の適正化(古い)	58.73	59.71	58.73~59.71m: CL 割れ目ぞいに砂状化し、密着度の低い割れ目も多い。全体として脆い。	-
246	59.35	59.54	硬さ「C」主体	-	-	-		59.35	59.54	59.35~59.54m: 硬さ「C」主体。	-
247	59.71	60.00	D 強風化で締った砂状部主体。φ10mm前後の岩片が残留し、「砂礫状」を呈する。	59.71	60.00	D 強風化で硬質な砂状部主体。φ10mm前後の岩片が残留し、「砂礫状」を呈する。	・表現の適正化(締った⇒硬質な、mm)	59.71	60.00	59.71~60.00m: D 強風化で硬質な砂状部主体。φ10mm前後の岩片が残留し、砂礫状を呈する。	-
248	60.00	60.26	CL 50~55° 割れ目が主体。 割れ目ぞいにマンガン鉱染を受ける。	60.00	60.26	CL 50~55° 割れ目が主体。 割れ目ぞいにマンガン鉱染を受ける。	・表現の適正化(古い)	60.00	60.26	60.00~60.26m: CL 50~55° の割れ目が主体。割れ目ぞいにマンガン鉱染を受ける。	-
249	60.00	60.26	(岩級区分欄)CL	60.00	60.26	(岩級区分欄)D	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた	60.00	60.26	(岩級区分欄)Dに含める	-

# H27-B-2 60.26~62.39m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それの変更点)		
記事	記事	記事	記事	記事	記事	記事	記事	記事			
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事			
		記事			記事			記事			
		記事			記事			記事			
		記事			記事			記事			
		記事			記事			記事			
250	60.26	60.69	破砕帯(主せん断面60.58m)	250	60.26	60.69	破砕部(最新活動面60.93m)	60.26	60.69	●60.26~60.69m:破砕部 60.26~60.58m:硬質砂状部(H) 上端は28°で、一部消滅しかける直線的な割れ目。下端は18°で波打って連続。径5~10mmの硬さ「E」岩片と岩片間の風化で拡大した砂状部からなる。下端側に下位のHe-1の粘土と同方向の細かい割れ目が発達。色調はぶい黄褐色(10YR 6/4)。厚さ3260mm(コア長)。 H 上端は28°で一部消滅しかける不明瞭部からなる直線的な割れ目。下端は18°で波打って連続。径5~10mm、硬さ「E」岩片と岩片間は風化で砂状化が拡大した「硬質砂」状を呈する。下端側に下位のHe-1の粘土と同方向の細かい割れ目が発達。色調はぶい黄褐色(10YR 6/4)。厚さ3260mm(コア長)。 ●硬質砂が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	●60.26~60.69m:破砕部 60.26~60.58m:硬質砂状部(H) 上端は28°で、一部消滅しかける直線的な割れ目。下端は18°で波打って連続。径5~10mmの硬さ「E」岩片と岩片間の風化で拡大した砂状部からなる。下端側に下位のHe-1の粘土と同方向の細かい割れ目が発達。機被割れて全体が硬質砂状化している。ぶい黄褐色を呈する。 60.58~60.69m:粘土状部(Hc-1) 傾斜18°で上端とも波打って連続。径1mmの石英粒を約20%含む。明褐色を呈する。幅10~12mm。 60.58~60.69m:粘土混じり硬質部(H) 上端18°で、下端37°の割れ目ですれも波打って連続。径5~20mmの硬さ「E」岩片と岩片間の粘土化→砂状部からなる。色調は明褐色(5YR 7/2)。厚さ10~12mm。 ●原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られない。
251	60.26	60.58	H 上端は28°で一部消滅しかける不明瞭部からなる直線的な割れ目。下端は18°で波打って連続。径5~10mm、硬さ「E」岩片と岩片間は風化で砂状化が拡大した「硬質砂」状を呈する。下端側に下位のHe-1の粘土と同方向の細かい割れ目が発達。色調はぶい黄褐色(10YR 6/4)。厚さ3260mm(コア長)。	251	60.26	60.58	H 上端は28°で一部消滅しかける不明瞭部からなる直線的な割れ目。下端は18°で波打って連続。径5~10mm、硬さ「E」岩片と岩片間は風化で砂状化が拡大した「硬質砂」状を呈する。下端側に下位のHe-1の粘土と同方向の細かい割れ目が発達。色調はぶい黄褐色(10YR 6/4)。厚さ3260mm(コア長)。 ●硬質砂が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られない。	60.26	60.69	●60.26~60.69m:破砕部 60.26~60.58m:硬質砂状部(H) 上端は28°で、一部消滅しかける直線的な割れ目。下端は18°で波打って連続。径5~10mmの硬さ「E」岩片と岩片間の風化で拡大した砂状部からなる。下端側に下位のHe-1の粘土と同方向の細かい割れ目が発達。機被割れて全体が硬質砂状化している。ぶい黄褐色を呈する。 60.58~60.69m:粘土状部(Hc-1) 傾斜18°で上端とも波打って連続。径1mmの石英粒を約20%含む。明褐色を呈する。幅10~12mm。 60.58~60.69m:粘土混じり硬質部(H) 上端18°で、下端37°の割れ目ですれも波打って連続。径5~20mmの硬さ「E」岩片と岩片間の粘土化→砂状部からなる。色調は明褐色(5YR 7/2)。厚さ10~12mm。 ●原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られない。	
252	60.58	60.59	Hc-1 で上下端とも波打って連続。径1mm石英粒を約20%含む軟質粘土(ガウジ)。色調は明褐色(5YR 7/2)。厚さ10~12mm。	252	60.58	60.59	Hc-1 で上下端とも波打って連続。径1mm石英粒を約20%含む軟質粘土(ガウジ)。色調は明褐色(5YR 7/2)。厚さ10~12mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	60.26	60.69	●60.26~60.69m:破砕部 60.26~60.58m:硬質砂状部(H) 上端は28°で、一部消滅しかける直線的な割れ目。下端は18°で波打って連続。径5~10mmの硬さ「E」岩片と岩片間の風化で拡大した砂状部からなる。下端側に下位のHe-1の粘土と同方向の細かい割れ目が発達。機被割れて全体が硬質砂状化している。ぶい黄褐色を呈する。 60.58~60.69m:粘土状部(Hc-1) 傾斜18°で上端とも波打って連続。径1mmの石英粒を約20%含む。明褐色を呈する。幅10~12mm。 60.58~60.69m:粘土混じり硬質部(H) 上端18°で、下端37°の割れ目ですれも波打って連続。径5~20mmの硬さ「E」岩片と岩片間の粘土化→砂状部からなる。色調は明褐色(5YR 7/2)。厚さ10~12mm。 ●原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られない。	
253	60.59	60.69	H 上端18°で、下端37°の割れ目ですれも波打って連続。径5~20mm硬さ「E」岩片と岩片間の粘土化→砂状部からなる。色調は明褐色(5YR 7/2)。厚さ100mm(コア長)。	253	60.59	60.69	H 上端18°で、下端37°の割れ目ですれも波打って連続。径5~20mm硬さ「E」岩片と岩片間の粘土化→砂状部からなる。色調は明褐色(5YR 7/2)。厚さ100mm(コア長)。 ●硬質砂が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られない。	60.26	60.69	●60.26~60.69m:破砕部 60.26~60.58m:硬質砂状部(H) 上端は28°で、一部消滅しかける直線的な割れ目。下端は18°で波打って連続。径5~10mmの硬さ「E」岩片と岩片間の風化で拡大した砂状部からなる。下端側に下位のHe-1の粘土と同方向の細かい割れ目が発達。機被割れて全体が硬質砂状化している。ぶい黄褐色を呈する。 60.58~60.69m:粘土状部(Hc-1) 傾斜18°で上端とも波打って連続。径1mmの石英粒を約20%含む。明褐色を呈する。幅10~12mm。 60.58~60.69m:粘土混じり硬質部(H) 上端18°で、下端37°の割れ目ですれも波打って連続。径5~20mmの硬さ「E」岩片と岩片間の粘土化→砂状部からなる。色調は明褐色(5YR 7/2)。厚さ10~12mm。 ●原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られない。	
254	60.69	61.29	D 大半が風化で砂状化	254	60.69	61.29	D 大半が風化で砂状化	60.69	61.29	60.69~61.29m: D 大半が風化で砂状化する。	
255	61.29	61.69	破砕帯(主せん断面61.41m)<D-1>	255	61.29	61.69	破砕部(最新活動面61.43m)<D-1>	61.29	61.69	●61.29~61.69m:破砕部 61.29~61.41m:粘土混じり岩片状部(H) 上端45°、下端50°でいずれも直線的に連続。下位のHe-1の粘土と同方向の45°割れ目とこれに斜交する割れ目ですれも波打って連続。径5~10mmに岩片化した岩片と、一部の岩片間に分布する幅1mm以下の軟質白色粘土からなり「粘土混じり岩片状」を呈する。色調はぶい橙(7.5YR 7/4)。厚さ100mm。 ●原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られない。	
256	61.29	61.41	H 上端45°、下端50°でいずれも直線的に連続。主せん断面は直線的な割れ目とこれに斜交する割れ目ですれも波打って連続。径5~10mmに岩片化した岩片と、一部の岩片間に分布する幅1mm以下の軟質白色粘土からなり「粘土混じり岩片状」を呈する。色調はぶい橙(7.5YR 7/4)。厚さ100mm。	256	61.29	61.41	H 上端45°、下端50°でいずれも直線的に連続。下位のHe-1の粘土と同方向の45°割れ目とこれに斜交する割れ目ですれも波打って連続。径5~10mmに岩片化した岩片と、一部の岩片間に分布する幅1mm以下の軟質白色粘土からなり「粘土混じり岩片状」を呈する。色調はぶい橙(7.5YR 7/4)。厚さ100mm。 ●原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られない。	61.29	61.69	●61.29~61.69m:破砕部 61.29~61.41m:粘土混じり岩片状部(H) 上端45°、下端50°でいずれも直線的に連続。下位のHe-1の粘土と同方向の45°割れ目とこれに斜交する割れ目ですれも波打って連続。径5~10mmに岩片化した岩片と、一部の岩片間に分布する幅1mm以下の軟質白色粘土からなる。色調はぶい橙を呈する。幅100mm。 61.41~61.43m:粘土状部(Hc-1) 傾斜50°で上端は直線的に、下端は波打って連続。径1~2mmの石英粒、径3mmの岩片を約5%含む。やや軟質。灰黄褐色を呈する。幅5~15mm。 61.43~61.69m:粘土混じり岩片状部(H) 上端50°、下端60°で不明瞭にいずれも波打って連続。径5mmの岩片と、岩片間の粘土化→硬質部(幅1mm)の軟質白色粘土からなる。上端側は粘土化が著しい部分がある。ぶい橙~灰白色を呈する。	
257	61.41	61.43	Hc-1 50°で上端は直線的に、下端は波打って連続。径1~2mm石英粒。径3mm岩片を約5%含むやや軟質粘土(ガウジ)。色調は灰黄褐色(10YR 4/2)。厚さ5~15mm。	257	61.41	61.43	Hc-1 50°で上端は直線的に、下端は波打って連続。径1~2mm石英粒。径3mm岩片を約5%含むやや軟質粘土(ガウジ)。色調は灰黄褐色(10YR 4/2)。厚さ5~15mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	61.29	61.69	●61.29~61.69m:破砕部 61.29~61.41m:粘土混じり岩片状部(H) 上端45°、下端50°でいずれも直線的に連続。下位のHe-1の粘土と同方向の45°割れ目とこれに斜交する割れ目ですれも波打って連続。径5~10mmに岩片化した岩片と、一部の岩片間に分布する幅1mm以下の軟質白色粘土からなる。色調はぶい橙を呈する。幅100mm。 61.41~61.43m:粘土状部(Hc-1) 傾斜50°で上端は直線的に、下端は波打って連続。径1~2mmの石英粒、径3mmの岩片を約5%含む。やや軟質。灰黄褐色を呈する。幅5~15mm。 61.43~61.69m:粘土混じり岩片状部(H) 上端50°、下端60°で不明瞭にいずれも波打って連続。径5mmの岩片と、岩片間の粘土化→硬質部(幅1mm)の軟質白色粘土からなる。上端側は粘土化が著しい部分がある。ぶい橙~灰白色を呈する。	
258	61.43	61.69	H 上端50°で、下端60°で不明瞭にいずれも波打って連続。径5mmの岩片と、岩片間の粘土化→硬質部(幅1mm)の軟質白色粘土からなり「粘土混じり岩片状」を呈する。上端側は粘土化が著しい部分がある。色調はぶい橙(7.5YR 6/4)~灰白色(10YR 8/2)。厚さ260mm(コア長)。	258	61.43	61.69	H 上端50°で、下端60°で不明瞭にいずれも波打って連続。径5mmの岩片と、岩片間の粘土化→硬質部(幅1mm)の軟質白色粘土からなり「粘土混じり岩片状」を呈する。上端側は粘土化が著しい部分がある。色調はぶい橙(7.5YR 6/4)~灰白色(10YR 8/2)。厚さ260mm(コア長)。 61.43~61.50mは粘土混じり硬質部を呈し、やや軟質。含まれる細粒部は局所的に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。 61.50~61.69mは粘土混じり硬質部を呈し、やや軟質。含まれる細粒部は局所的に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	61.29	61.69	●61.29~61.69m:破砕部 61.29~61.41m:粘土混じり岩片状部(H) 上端45°、下端50°でいずれも直線的に連続。下位のHe-1の粘土と同方向の45°割れ目とこれに斜交する割れ目ですれも波打って連続。径5~10mmに岩片化した岩片と、一部の岩片間に分布する幅1mm以下の軟質白色粘土からなる。色調はぶい橙を呈する。幅100mm。 61.41~61.43m:粘土状部(Hc-1) 傾斜50°で上端は直線的に、下端は波打って連続。径1~2mmの石英粒、径3mmの岩片を約5%含む。やや軟質。灰黄褐色を呈する。幅5~15mm。 61.43~61.69m:粘土混じり岩片状部(H) 上端50°、下端60°で不明瞭にいずれも波打って連続。径5mmの岩片と、岩片間の粘土化→硬質部(幅1mm)の軟質白色粘土からなる。上端側は粘土化が著しい部分がある。ぶい橙~灰白色を呈する。	
259	61.43	61.50	(変質帯)4ランク	259	61.43	61.50	(変質帯)4ランク	61.41	61.50	61.41~61.50m: CL 45~60°とこれに斜交する割れ目が多いが、62.00m以深ではこれらが消滅しかかっているものが多い。	
260	61.69	62.39	CL 45~60°とこれに斜交する割れ目が多いが、62.00m以深ではこれらが消滅しかかっているものが多い。	260	61.69	62.39	CL 45~60°とこれに斜交する割れ目が多いが、62.00m以深ではこれらが消滅しかかっているものが多い。	61.69	62.39	61.69~62.39m: CL 45~60°とこれに斜交する割れ目が多いが、62.00m以深ではこれらが消滅しかかっているものが多い。	

# H27-B-2 61.69~66.44m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
261	61.69	62.13	コアの硬さ欄にランク	61.69	62.13	コアの硬さ欄にランク	61.69	62.13	コアの硬さ欄にランク
262	62.26	62.39	コアの硬さ欄にランク	62.26	62.39	コアの硬さ欄にランク	62.26	62.39	コアの硬さ欄にランク
263	62.39	63.75	D 局部的にφ5~20mm硬さ「D」岩片が残留するが、大半が砂状化している。	62.39	63.75	D 局部的にφ5~20mm硬さ「D」岩片が残留するが、大半が砂状化している。	62.39	63.75	62.39~63.75m: D 局部的にφ5~20mmの硬さ「D」岩片が残留するが、大半が砂状化している。
264	62.95	-	62.95m以深では粘土化も更に進み、原岩組織は大半の部分で消滅する。幅1~2mm白色軟質粘土層が粘土化岩片間を縫うように分布する。 一部でマンガン鉱染を伴い、薄く黒褐色化する。	62.95	-	62.95m以深では粘土化も更に進み、原岩組織は大半の部分で消滅する。幅1~2mm白色軟質粘土層が粘土化岩片間を縫うように分布する。 一部でマンガン鉱染を伴い、薄く黒褐色化する。	62.95	-	62.95m以深では粘土化が更に進み、原岩組織は大半の部分で消滅する。 幅1~2mmの白色軟質粘土層が粘土化岩片間を縫うように分布する。一部でマンガン鉱染を伴い、薄く黒褐色化する。
265	63.75	63.85	破砕帯(主せん断面83.80m)	63.75	63.85	破砕帯(最新活動面63.85m)(最も直線的な面)	63.75	63.85	●63.75~63.85m: 破砕部 63.75~63.80m: 粘土・砂混じり岩片状部(H) 上端3°で波打つ割れ目、下端46°で波打って連続。径5~10mmの岩片と岩片間の粘土状・砂状部からなり、「粘土・砂混じり岩片」状を呈する。色調は土に近い褐色(7.5YR 7/3)。厚さ30~50mm。 軟質、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。
266	63.75	63.80	H 上端3°で波打つ割れ目、下端46°で直線的に連続。φ5~10mm岩片と岩片間の粘土状・砂状部からなり、「粘土・砂混じり岩片」状を呈する。色調は土に近い褐色(7.5YR 7/3)。厚さ30~50mm。	63.75	63.80	H 上端3°で波打つ割れ目、下端46°で波打って連続。明瞭な粘土層はない。上位の硬質部との境界は漸線的。φ5~10mm岩片と岩片間の粘土状・砂状部からなり、「粘土・砂混じり岩片」状を呈する。色調は土に近い褐色(7.5YR 7/3)。厚さ30~50mm。 軟質、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	63.75	63.85	●63.75~63.85m: 破砕部 63.75~63.80m: 粘土・砂混じり岩片状部(H) 上端3°で波打つ割れ目、下端46°で波打って連続。径5~10mmの岩片と岩片間の粘土状・砂状部からなり、「粘土・砂混じり岩片」状を呈する。幅30~50mm。 63.80~63.85m: 硬質粘土状部(Hb) 上端46°、下端47°でともに波打って連続。径1~3mmの石英粒、径5~20mmの硬さ「D」岩片を20~30%含む。やや硬質、灰褐色を呈する。幅20~35mm。
267	63.80	63.85	Hb 上端46°で直線的に、下端47°で波打って連続。φ1~3mm石英粒、φ5~20mm硬さ「D」岩片を20~30%含む半固結状の「硬質粘土」状を呈する。色調は灰褐色(7.5YR 5/2)。厚さ45~55mm。	63.80	63.85	Hb 上端46°、下端47°でともに波打って連続。直線的に交差し、下の方が直線的である。φ1~3mm石英粒、φ5~20mm硬さ「D」岩片を20~30%含むやや硬質な「硬質粘土」状を呈する。色調は灰褐色(7.5YR 5/2)。厚さ20~35mm。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	63.80	63.85	●63.85~64.49m: D 径10~20mmの硬さ「D」岩片が多く残留している(残留率30~40%程度)。全体に硬質な「砂塊状」を呈する。粘土状部は砂状部中にわずかに散在する程度。
268	63.85	64.49	D φ10~20mm硬さ「D」岩片が多く残留している(残留率30~40%程度)。全体に硬質な「砂塊状」を呈する。粘土状部は砂状部中にわずかに散在する程度。	63.85	64.49	D φ10~20mm硬さ「D」岩片が多く残留している(残留率30~40%程度)。全体に硬質な「砂塊状」を呈する。粘土状部は砂状部中にわずかに散在する程度。	63.85	64.49	63.85~64.49m: D 径10~20mmの硬さ「D」岩片が多く残留している(残留率30~40%程度)。全体に硬質な砂塊状を呈する。粘土状部は砂状部中にわずかに散在する程度。
269	64.49	65.18	CH 堅硬・塊状	-	-	-	64.49	65.18	64.49~65.18m: CH 堅硬・塊状。
270	64.63	64.73	上端45°、下端30°割れ目に囲まれ片状~角塊状化する。粘土はく、わずかな砂状部が分布する。	64.68	64.73	上端45°、下端30°割れ目に囲まれ片状~角塊状化する。粘土はく、わずかな砂状部が分布する。	64.68	64.73	64.68~64.73m: 上端45°、下端30°の割れ目に囲まれ、片状~角塊状化する。粘土はく、わずかな砂状部が分布する。
271	65.18	65.36	D 割れ目ぞいに砂状化が拡大し、締った「砂塊状」を呈する。	65.18	65.36	D 割れ目ぞいに砂状化が拡大し、硬質な「砂塊状」を呈する。	65.18	65.36	65.18~65.36m: D 割れ目ぞいに砂状化が拡大し、硬質な砂塊状を呈する。
272	65.18	65.36	割れ目状懸濁のランク (コアの形状欄) Vランク (岩級区分欄) D	65.18	65.36	割れ目状懸濁のランク (コアの形状欄) Vランク (岩級区分欄) CL	65.18	65.36	割れ目状懸濁のランク (コアの形状欄) VIランク (岩級区分欄) CLに含める
273	65.36	68.05	CL 岩片は堅硬であるが割れ目ぞいに砂状化が進むことが多い。 粘土化部や粘土層は殆んど含まない。上端側と下端側は短柱状コア主体、中央部は片状コア主体で一部割れ目ぞいに砂状化進む。	65.36	68.05	CL 岩片は堅硬であるが割れ目ぞいに砂状化が進むことが多い。 粘土化部や粘土層は殆んど含まない。上端側と下端側は短柱状コア主体、中央部は片状コア主体で一部割れ目ぞいに砂状化進む。	65.36	68.05	●スライム(68.00~68.22m)を除去してコアを残し側にスライドさせているため下層深度を変更した。 ●表現の適正化(色)
274	65.96	66.01	砂状化が進んでいる	-	-	-	65.96	66.01	65.96~66.01m: 砂状化が進んでいる。
275	65.00	65.17	長柱状コア(コア長17cm)	65.00	65.17	長柱状コア(コア長17cm)	65.00	65.17	65.00~65.17m: 柱状コア(コア長17cm)。
276	66.20	66.01	上下位に比べ風化がやや進む。	66.20	66.01	上下位に比べ風化がやや進む。	66.20	66.01	66.20~66.01m: 上下位に比べ風化がやや進む。
277	66.20	66.39	(風化欄) Rランク	66.20	66.39	(風化欄) Yランク	66.20	66.39	(風化欄) Yランク
278	66.39	66.65	割れ目ぞいに砂状化進む	66.39	66.65	割れ目ぞいに砂状化進む	66.39	66.65	66.39~66.65m: 割れ目ぞいに砂状化が進む。
279	66.39	66.44	コアチューブ引上げ時に乱されφ10mm前後の岩片状コアを呈する。	66.39	66.44	コアチューブ引上げ時に乱されφ10mm前後の岩片状コアを呈する。	66.39	66.44	66.39~66.44m: コアチューブ引上げ時に乱され、径10mm前後の岩片状コアを呈する。

# H27-B-2 66.65~68.39m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事を削除・変更・追記した理由	上端深度	下端深度		選定した記事内容
		記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
280	66.65	67.00						66.65	67.00	66.65~67.00m:硬さ「B」の堅硬な岩片も多く含む。
281	66.65	68.01		66.65	68.01	(風化欄)γランク	風化の程度はやや弱いため風化のランクをαランクに変更した	66.65	68.01	(風化欄)γランク
282	67.00	67.46	落下コア回収のため2度掘りしている。	67.00	67.46	落下コア回収のため岩片状を呈する	落下コア部についての性状を追記した	67.00	67.46	67.00~67.46m:落下コア回収のため岩片状を呈する。
283	67.48	67.63	長柱状コア(コア長15cm)	67.48	67.63	長柱状コア(コア長15cm)	20cm未満は「柱状」と表現するため変更した	67.48	67.63	67.48~67.63m:柱状コア(コア長15cm)。
284	67.65	68.12	(色調欄)γ5YR7/3にぶい橙	67.65	68.12	(色調欄)10YR6/3にぶい黄橙	コアに合わせて色調を変更した スライム(68.00~68.22m)を除去してコアを洗い側にスライドさせているため色調を見直した	67.65	68.12	(色調欄)γにぶい黄橙
285	67.65	68.01	硬さ「D」岩片主体で一部割れ目ぞいに砂状化する。	67.65	68.05	硬さ「D」岩片主体で一部割れ目ぞいに砂状化する。	スライム(68.00~68.22m)を除去してコアを洗い側にスライドさせているため下端深度を変更した 表現の適正化(ぶい)	67.65	68.05	67.65~68.05m:硬さ「D」の岩片主体で一部割れ目ぞいに砂状化する。
286	68.00	69.00	(RQD欄)0 (最大コア長欄)4	68.00	69.00	(RQD欄)12 (最大コア長欄)12	スライム(68.00~68.22m)を除去してコアを洗い側にスライドさせているためRQD、最大コア長を見直した	68.00	69.00	(RQD欄)12 (最大コア長欄)12
287	68.01	-	68.01m以降は割れ目換在物は殆んど分布しない。	68.01	-	68.01m以降は割れ目換在物は殆んど分布しない。	スライム(68.00~68.22m)を除去したため、スライムに関する記事を削除した	-	-	-
288	68.01	68.05	(割れ目状態欄)αランク (コアの形状欄)IVランク (コアの硬さ欄)Cランク	68.01	68.05	(割れ目状態欄)αランク (コアの形状欄)Vランク (コアの硬さ欄)Dランク	スライム(68.00~68.22m)を除去してコアを洗い側にスライドさせているため割れ目状態、コアの形状、コアの硬さの各ランクを見直した	68.01	68.05	(割れ目状態欄)αランク (コアの形状欄)Vランク (コアの硬さ欄)Dランク
289	68.05	68.12	(割れ目状態欄)αランク (コアの形状欄)VIランク (コアの硬さ欄)Eランク (風化欄)γランク	68.05	68.12	(割れ目状態欄)αランク (コアの形状欄)VIランク (コアの硬さ欄)Eランク (風化欄)δランク	スライム(68.00~68.22m)を除去してコアを洗い側にスライドさせているため割れ目状態、コアの形状、コアの硬さ、風化の各ランクを見直した	68.05	68.12	(割れ目状態欄)αランク (コアの形状欄)VIランク (コアの硬さ欄)Eランク (風化欄)δランク
290	68.12	68.34	(色調欄)γ5YR7/3にぶい橙	68.12	68.34	(色調欄)γ5YR6/2灰褐	スライム(68.00~68.22m)を除去してコアを洗い側にスライドさせているため色調を見直した	68.12	68.34	(色調欄)灰褐
291	68.12	68.27	(割れ目状態欄)αランク (コアの形状欄)IVランク (コアの硬さ欄)Cランク (風化欄)γランク	68.12	68.27	(割れ目状態欄)αランク (コアの形状欄)Vランク (コアの硬さ欄)Eランク (風化欄)δランク	スライム(68.00~68.22m)を除去してコアを洗い側にスライドさせているため割れ目状態、コアの形状、コアの硬さ、風化の各ランクを見直した	68.12	68.27	(割れ目状態欄)αランク (コアの形状欄)Vランク (コアの硬さ欄)Eランク (風化欄)δランク
292	68.27	68.34	(割れ目状態欄)αランク (コアの形状欄)IVランク (風化欄)γランク (実質欄)4ランク (岩級区分欄)0	68.27	68.34	(割れ目状態欄)αランク (コアの形状欄)Vランク (風化欄)δランク (実質欄)2ランク (岩級区分欄)CL	スライム(68.00~68.22m)を除去してコアを洗い側にスライドさせているため割れ目状態、コアの形状、風化、実質の各ランクを見直した 上記の見直しに伴い、岩級を変更した	68.27	68.34	(割れ目状態欄)αランク (コアの形状欄)Vランク (風化欄)δランク (実質欄)2ランク (岩級区分欄)CL
293	68.34	68.39	(割れ目状態欄)αランク (コアの形状欄)IVランク (コアの硬さ欄)Bランク (風化欄)δランク (岩級区分欄)CM	68.34	68.39	(割れ目状態欄)αランク (コアの形状欄)Vランク (コアの硬さ欄)Eランク (風化欄)δランク (岩級区分欄)CL	スライム(68.00~68.22m)を除去してコアを洗い側にスライドさせているため割れ目状態、コアの形状、コアの硬さ、風化の各ランクを見直した 上記の見直しに伴い、岩級を変更した	68.34	68.39	(割れ目状態欄)αランク (コアの形状欄)Vランク (コアの硬さ欄)Eランク (風化欄)δランク (岩級区分欄)CL

# H27-B-2 68.02~69.95m

記事	コア観察カード		適正化すべき記事内容		記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それの変更点)										
	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「J」で表示)		上端深度	下端深度		記事	上端深度	下端深度	適正化した記事内容						
				記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>														
294	68.27	68.34		破砕帯(主せん断面68.27m)	68.27	68.34												
295	68.27	68.27		He-1 41"で上下端とも直線的に連続。φ1mm石英粒をごく少量(5%以下)含む軟弱粘土(ガウジ)。色調は淡黄(2.5Y 8/3)。厚さ1~2mm/m	68.27	68.27												
296	68.27	68.34		H 上端41"で直線的に、下端20~40"で湾曲し、一部、灰黄緑(10Y 5/2)幅1~5mm軟弱粘土脈として連続。主せん断面と同方向の割れ目とこれに直交する割れ目でφ5~10mm/mに細片化した岩片と岩片間の一部が幅1mm白~淡黄色軟弱粘土脈からなり「粘土混じり岩片」状を呈する。色調はふい色(7.5Y 7/3)。厚さ65mm/m	68.27	68.34												
297	-	-			68.02	68.06												
298	-	-			68.02	68.05												
299	-	-			68.05	68.06												
300	-	-			68.06	68.12												
301	68.27	68.27		(破砕度区分)He-1	68.05	68.06												
302	68.27	68.34		(破砕度区分)Hj	68.02	68.05												
303	68.34	68.59		CM 堅硬であるが、割れ目がやや多い。一部で長石が白濁化するが少ない。挟持物は少ないが、69.30~69.40m間の90°割れ目にごく薄い砂状脈をばさむ	68.39	69.30												
304	68.34	68.38		軟化著しい	68.12	68.39												
305	69.30	69.56		(コアの形状)IVランク	69.30	69.56												
306	69.30	69.69		(割れ目状態)Cランク (岩級区分)CM	69.30	69.69												
307	69.69	69.95		CL	69.30	69.95												
308	69.69	69.95		(実質)2ランク	69.69	69.95												
309	69.81	69.95		割れ目そいに砂状化込みφ10~20mm岩片を含む「砂状」を呈する	69.81	69.95												



# H27-B-2 69.95~80.48m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「J」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容		
		記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「J」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>						
310	69.95	71.06	CM 割れ目には殆んど挟在物は分布しないが70.66m・57"と70.70m・60"割れ目に囲まれて片状化する。 前者の割れ目では面沿いに幅1~2mm砂状化。φ0.5~1mmの雲母(セリサイト)が晶出している。	69.95	71.06	CM 割れ目には殆んど挟在物は分布しないが70.66m・57"と70.70m・60"割れ目に囲まれて片状化する。 前者の割れ目では面沿いに幅1~2mm砂状化。φ0.5~1mmの雲母(セリサイト)が晶出している。		69.95	71.06	69.95~71.06m:CM 割れ目には殆んど挟在物は分布しないが、70.66m・57"と70.70m・60"の割れ目に囲まれて片状化する。前者の割れ目では面沿いに幅1~2mmで砂状化する。径0.5~1mmの雲母(セリサイト)が晶出している。	
311	71.06	71.88	CL 30"と60~75"割れ目が交差し、交差部の一部では厚さ10~60mmで締った砂状~砂礫状を呈する。粘土化部も点在するがわずかである。	71.06	71.88	CL 30"と60~75"割れ目が交差し、交差部の一部では厚さ10~60mmで硬質な砂状~砂礫状を呈する。粘土化部も点在するがわずかである。		71.06	71.88	71.06~71.88m:CL 30"と60~75"の割れ目が交差し、交差部の一部では幅10~60mmで硬質な砂状~砂礫状を呈する。粘土化部も点在するがわずかである。	
312	71.88	76.11	CM 一部で風化による砂状部を幅2~3mmで挟むが、挟在物が分布しない割れ目が多い。	71.88	76.11	CM 一部で風化による砂状部を幅2~3mmで挟むが、挟在物が分布しない割れ目が多い。		71.88	76.11	71.88~76.11m:CM 一部で風化による砂状部を幅2~3mmで挟むが、挟在物を伴わない割れ目が多い。	
313	72.48	74.57	割れ目ぞいに褐色化進むが硬質で砂状化はない。	72.48	72.57	割れ目沿いに褐色化進むが硬質で砂状化はない。		72.48	72.57	72.48~72.57m:割れ目沿いに褐色化が進むが、硬質で砂状化はない。 ・表記の修正(74.57⇒72.57) ・表記の適正化(沿い)	
314	74.57	73.16	長さ10cm以上の硬質コア主体	72.57	73.16	長さ10cm以上の硬質コア主体		72.57	73.16	72.57~73.16m:長さ10cm以上の硬質コア主体。 ・表記の修正(74.57⇒72.57)	
315	73.20	75.00	20~30"と60~70"割れ目が交差。交差部の一部で片状~角礫状化するが砂状部や粘土部は伴わない。	73.20	75.00	20~30"と60~70"割れ目が交差。交差部の一部で片状~角礫状化するが砂状部や粘土部は伴わない。		73.20	75.00	73.20~75.00m:20~30"と60~70"の割れ目が交差し、交差部の一部で片状~角礫状化するが、砂状部や粘土部は伴わない。 ・表記の適正化(伴う。粘土部⇒粘土状部)	
316	74.85	75.00	割れ目ぞいにマンガン鉱染を受ける。	74.85	75.00	割れ目沿いにマンガン鉱染を受ける。		74.85	75.00	74.85~75.00m:割れ目沿いにマンガン鉱染を受ける。 ・表記の適正化(沿い)	
317	75.65	75.92	内部に中層割れ目や密着度の低い割れ目を持たない長さ26cmのコア	75.65	75.92	内部に中層割れ目や密着度の低い割れ目を持たない長さ27cmのコア		75.65	75.92	75.65~75.92m:内部に中層割れ目や密着度の低い割れ目を伴わない長さ27cmのコア。 ・表記の修正(記載区間長と不整合)	
318	76.11	77.02	CL 割れ目が交差しφ10~30mmの片状~角礫状化する。岩片自身は硬質で劣化はない。一部の割れ目ではφ2~5mm/mの細礫状に幅10mm以下で砕けているが、砂や粘土は伴わない。全体に長石の白濁化が目立つ。	76.11	77.02	CL 割れ目が交差しφ10~30mmの片状~角礫状化する。岩片自身は硬質で劣化はない。一部の割れ目ではφ2~5mmの細礫状に幅10mm以下で砕けているが、砂や粘土は伴わない。全体に長石の白濁化が目立つ。		76.11	77.02	76.11~77.02m:CL 割れ目が交差しφ10~30mmに片状~角礫状化する。岩片自身は硬質で劣化はない。一部の割れ目ではφ2~5mmの細礫状に幅10mm以下で砕けているが、砂や粘土は伴わない。全体に長石の白濁化が目立つ。 ・表記の適正化(伴う。mm)	
319	77.02	79.47	CM 全区間硬質であるが、77.43m~78.00m間では密着度の低い割れ目が多く、ハンマーの打撃でφ30mm前後に分離・細片化し易い。また、同区間では割れ目ぞいにマンガン鉱染を受け割れ目の面の一部は黒褐色化する。	77.02	79.47	CM 全区間硬質であるが、77.43m~78.00m間では密着度の低い割れ目が多く、ハンマーの打撃でφ30mm前後に分離・細片化し易い。また、同区間では割れ目沿いにマンガン鉱染を受け割れ目の面の一部は黒褐色化する。		77.02	79.47	77.02~79.47m:CM 全区間硬質であるが、77.43~78.00m間では密着度の低い割れ目が多く、ハンマーの打撃でφ30mm前後に分離・細片化し易い。また、同区間では割れ目沿いにマンガン鉱染を受け、割れ目の面の一部は黒褐色化する。 ・表記の適正化(mm、沿い)	
320	77.21	77.21	交差する2本の割れ目の一部で、幅2~3mm砂状化するが、砂状部は割れ目全体に連続しない。	77.21	77.21	交差する2本の割れ目の一部で、幅2~3mm砂状化するが、砂状部は割れ目全体に連続しない。		77.21	77.21	77.21m:交差する2本の割れ目の一部は、幅2~3mmで砂状化するが、砂状部は割れ目全体に連続しない。 ・表記の適正化(mm)	
321	78.00	-	78m以深は長さ10cm前後のコアが主体となるが、一部では密着度の低い割れ目をもつものもある。	78.00	-	78.00m以深は長さ10cm前後のコアが主体となるが、一部では密着度の低い割れ目をもつものもある。		78.00	-	78.00m以深は長さ10cm前後のコアが主体となるが、一部では密着度の低い割れ目が分布する。 ・表記の統一(78.00) ・表記の修正(長⇒長さ)	
322	78.40	78.40	割れ目ぞいにマンガン鉱染を受ける。	78.40	78.40	割れ目沿いにマンガン鉱染を受ける。		78.40	78.40	78.40m:割れ目沿いにマンガン鉱染を受ける。 ・表記の適正化(沿い)	
323	79.00	-	79m以深では長石斑晶の白濁化が多い。	79.00	-	79.00m以深では長石斑晶の白濁化が多い。		79.00	-	79.00m以深では長石斑晶の白濁化が多い。 ・表記の統一(79.00)	
324	79.10	79.10	40"割れ目ぞいに幅10~15mmが淡緑色化し、面沿いにφ0.5mm以下の微細な雲母(セリサイト)が晶出する。	79.13	79.13	40"割れ目沿いに幅10~15mmが淡緑色化し、面沿いにφ0.5mm以下の微細な雲母(セリサイト)が晶出する。		79.13	79.13	79.13m:40"の割れ目沿いに幅10~15mmが淡緑色化し、面沿いに径0.5mm以下の微細な雲母(セリサイト)が晶出する。 ・表記の適正化(mm、沿い) ・表記の修正(79.10⇒79.13、淡緑色化する割れ目をコアに含ませて深度を変更)	
325	79.00	80.19	(資質欄)3ランク	79.00	80.19	(資質欄)2ランク		79.00	80.19	・階間と同程度の資質であるため資質のランクを2ランクに変更した (資質欄)2ランク	
326	79.47	80.19	CL 30~50"と70"割れ目が交差。交差部の一部でφ10mm程度に細片状化。70"割れ目の一部に幅2~3mmの炭質~褐色粘土層を挟む。	79.47	80.19	CL 30~50"と70"割れ目が交差。交差部の一部でφ10mm程度に細片状化。70"割れ目の一部に幅2~3mmの炭質~褐色粘土層を挟む。		79.47	80.19	79.47~80.19m:CL 30~50"と70"の割れ目が交差し、交差部の一部は径10mm程度に細片状化する。70"の割れ目の一部に幅2~3mmの炭質~褐色粘土層を挟む。 ・表記の適正化(挟む。mm)	
327	79.83	79.90	割れ目ぞいに砂状~φ2~5mm細片状化進む。少量の粘土も伴う。	79.83	79.90	割れ目沿いに砂状~φ2~5mm細片状化進む。少量の粘土も伴う。		79.83	79.90	79.83~79.90m:割れ目沿いに砂状~径2~5mmの細片状化が進む。少量の粘土も伴う。 ・表記の適正化(沿い。mm)	
328	80.19	80.48	CM 一部のコアに密着度の低い割れ目を含んでいる。割れ目挟在物は分布しない。	-	-	-		80.19	80.48	80.19~80.48m:CM 一部に密着度の低い割れ目を含む。割れ目に挟在物は分布しない。 ・表記の適正化(沿い。mm)	

# H27-B-2 80.19~85.78m

No.	コア観察カード		適正化すべき記事内容		記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
	上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度		記事
			コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>						
328	80.19	80.48	CM 一部のコアに密着度の低い割れ目を含んでいる。割れ目挟在物は分布しない。	-	-	-	80.19	80.48	80.19~80.48m:CM 一部に密着度の低い割れ目を含む。割れ目に挟在物は分布しない。
329	80.19	80.48	(岩級区分欄)CM	80.19	80.48	(岩級区分欄)CH	80.19	80.48	区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた (岩級区分欄)CHに含める
330	80.48	83.12	CH 堅硬で硬ね未風化の岩盤で、割れ目には挟在物は分布しない。 ゆ着割れ目はなく、密着度の低い割れ目はごく一部に分布する程度。 全体にφ2~3mm暗緑色鉱物(緑泥石)が晶出している。 長石の白濁化は殆んど認められない。	80.48	83.12	CH 堅硬で硬ね未風化の岩盤で、割れ目には挟在物は分布しない。 ゆ着割れ目はなく、密着度の低い割れ目はごく一部に分布する程度。 全体にφ2~3mm暗緑色鉱物(緑泥石)が晶出している。 長石の白濁化は殆んど認められない。	80.48	83.12	80.48~83.12m:CH 堅硬で硬ね未風化の岩盤で、割れ目には挟在物は分布しない。ゆ着割れ目はなく、密着度の低い割れ目はごく一部に分布する程度。全体にφ2~3mmの暗緑色鉱物(緑泥石)が晶出している。長石の白濁化は殆んど認められない。
331	81.10	81.35	φ2~5mmの斑点状にマンガン鉱染受け灰褐色を帯びる。 劣化は伴わない。	81.10	81.35	φ2~5mmの斑点状にマンガン鉱染受け灰褐色を帯びる。 劣化は伴わない。	81.10	81.35	表現の適正化(mm、帯びる、伴う) ・脚注の修正(不要な語句「色調」を削除) 81.10~81.35m:径2~5mmの斑点状にマンガン鉱染を受け、灰褐色を帯びる。劣化は伴わない。
332	82.10	82.30	珪化変質によりφ5~10mm斑点状~幅10mm脈状の石英が晶出し上下位よりも更に硬質となっている。	82.10	82.30	珪化変質によりφ5~10mm斑点状~幅10mm脈状の石英が晶出し上下位よりも更に硬質となっている。	82.10	82.30	表現の適正化(mm) 82.10~82.30m:珪化変質により径5~10mmの斑点状~幅10mmの脈状の石英が晶出し、上下位よりも硬質となっている。
333	82.72	82.86	コア中に密着度の低い割れ目を含む	82.72	82.86	コア中に密着度の低い割れ目を含む	82.72	82.86	文章の適正化(「コア中」は記載する必要がないため削除した) 82.72~82.86m:密着度の低い割れ目を含む。
334	83.12	83.79	CL 83.46m以浅は20~50° 割れ目が多く、割れ目沿いに砂状化が進む。マンガン鉱染も伴う。岩片自身も硬さ[D]に軟化する。 83.46m以深は割れ目は多いが硬質で挟在物も殆んど分布しない。	83.12	83.79	CL 83.46m以浅は20~50° 割れ目が多く、割れ目沿いに砂状化が進む。マンガン鉱染も伴う。岩片自身も硬さ[D]に軟化する。 83.46m以深は割れ目は多いが硬質で挟在物も殆んど分布しない。	83.12	83.79	表現の適正化(沿い、軟質化) 83.12~83.79m:CL 83.46m以浅は20~50° の割れ目が多く、割れ目沿いに砂状化が進む。マンガン鉱染も伴う。岩片自身も硬さ[D]に軟化する。83.46m以深は割れ目は多いが、硬質で挟在物は殆んど分布しない。
335	83.79	84.43	CM 堅硬。 84.35~84.38mで10~15° 割れ目ぞい、ごく薄く風化。砂状化する以外は割れ目挟在物は分布しない。 一部にゆ着割れ目が分布するが密着度高く、ハンマー打撃でも分離しない。	83.79	84.43	CM 堅硬。 84.35~84.38mで10~15° 割れ目ぞい、ごく薄く風化。砂状化する以外は割れ目挟在物は分布しない。 一部にゆ着割れ目が分布するが密着度高く、ハンマー打撃でも分離しない。	83.79	84.43	表現の適正化(沿い) 83.79~84.43m:CM 堅硬。84.35~84.38m間が10~15° の割れ目沿いにごく薄く風化、砂状化する以外は割れ目に挟在物は分布しない。一部にゆ着割れ目が分布するが、密着度が高く、ハンマーの打撃で分離しない。
336	84.43	84.61	CL 硬さ「C」岩片主体。多くの割れ目はマンガン鉱染で黒褐色化、粘土化なし	-	-	-	84.43	84.61	84.43~84.61m:CL 硬さ「C」の岩片主体。多くの割れ目はマンガン鉱染で黒褐色化するが、粘土化はない。
337	84.61	85.50	CL 硬さ「D」岩片主体 一部で割れ目ぞいに風化。砂状化が進む部分もある。 長石の白濁化が目立つ。	84.61	85.50	CL 硬さ「D」岩片主体 一部で割れ目ぞいに風化。砂状化が進む部分もある。 長石の白濁化が目立つ。	84.61	85.50	表現の適正化(沿い) 84.61~85.50m:CL 硬さ「D」の岩片主体。一部で割れ目沿いに風化、砂状化が進む部分もある。長石の白濁化が目立つ。
338	85.15	85.15	50° 幅5mm軟質な灰白色粘土脈はさむ。	85.15	85.15	50° 幅5mm軟質な灰白色粘土脈はさむ。	85.15	85.15	表現の適正化(mm、挟む) 85.15m:50° で幅5mmの軟質な灰白色粘土脈を挟む。
339	85.24	85.35	砂状化が進んでいる。40° 前後の割れ目が残留	-	-	-	85.24	85.35	85.24~85.35m:砂状化が進む。40° 前後の割れ目が残留する。
340	85.24	85.35	(岩級区分欄)D	85.24	85.35	(岩級区分欄)CL	85.24	85.35	区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた (岩級区分欄)CLに含める
341	85.50	85.58	D 粘土化が進む。	-	-	-	85.50	85.58	85.50~85.58m:D 粘土化が進む。
342	85.50	85.76	(岩級区分欄)D	85.50	85.76	(岩級区分欄)CL	85.50	85.76	区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた (岩級区分欄)CLに含める